

別冊資料

(資料 1 ~ 資料 28)



Ⅲ. 研究の内容と実践

1. 4歳児

実践事例 1

『T男の姿をおって』

—日々の保育の記録から—

(1) 対象児

2年保育 4歳児 22名(男児10名、女児12名)

(2) T男の実態

① 家庭環境

T男の家族は父母、小学校4年生の兄、小学校2年生の姉、3歳の妹、祖父母、曾祖母、叔父の10名という大家族である。祖父母は酪農を営んでおり、園から徒歩10分程の距離にある広い敷地内に住んでいる。その敷地内には、牛やにわとりや犬、猫等多くの動物がいる。またプラタナスの木やツツジ、ライラック、薔薇の花が咲き、自然に恵まれた環境の中で暮らしている。

T男は生き物がとても好きで、園から帰ると祖父と一緒に、にわとりに餌をくれたり、牛の餌を子ども用の一輪車で運んだりの生活である。父親は消防署に勤めており日中休みのこともあり、送り迎えを行なったりT男と一緒に遊んだりする時間が多くとれる。また母親はとても教育熱心であり、入園前には年子の妹と一緒に、近所の公園へ毎日のように出掛けて行って、固定遊具や砂場で遊ばせ友達に慣れるようにしていた。公園で遊んでいる子どもは年下の子が多かったが、すぐに友達になり、一緒に遊んでいたということである。

T男の兄弟は4人という子どもの多い家庭に育っているが、それ以上に大人が多くいるためT男の甘えや要求、欲求がいつも満たされる環境にある。

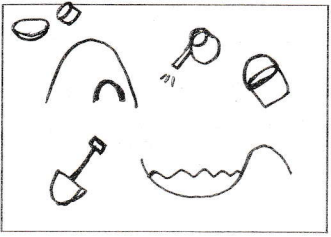
② 入園当初の姿

入園当初からとても元気がよく、活発であったが、ブロックや積木を投げたり、作った物を壊したりと少し乱暴な面も見られた。また降園時等には、みんなと一緒に椅子に座っていることができずふらふらしていることが多かった。

その反面、少しでも友達に叩たかれたりすると、めそめそと泣いて教師に甘えたり、抱っこやおんぶをせがんできたりすることも多く見られた。

(3) T男の姿から

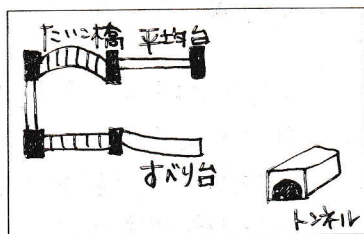
♥…教師の思い

日時	幼児の姿	教師のかかわり
4/16	<p>・一人で積木を高く積み上げたり、くずしたりして遊んでいる。</p> <p>(周囲には同じような遊びをしている幼児が2～3名程いるが、それぞれが個で遊んでいる。)</p>	<p>・早く園生活に慣れて楽しく遊べるように、積木等を用意しておく。</p> <p>♥一人で積み上げていた積木がくずれる様子を楽しんでいるようだが、早くお友達ができて、一緒に遊べるといいな。</p>
4/25	<p>・仲良くなったR男や、D男と一緒に積木を高く積み上げて、遊ぶ。</p> <p>(R男やD男は、T男の言いなりになって、積木を渡しているだけである。)</p> <p>・「先生見て！高いのできたよ。」と自分より高く積み上げた積木を、自慢げに見せる。</p>	<p>♥一人ではなく友達とかかわれるようになってきた様子を見てうれしく思うと同時に、R男やD男を自分の思いのままに動かすのではなく、一緒に遊ぼうとする気持ちになってほしい。</p> <p>・「すごいね。すごく高いね。」とT男の感動を受けとめ喜びを共感する。また「みんなで作るといいのができるね。」と友達と一緒に遊ぶことの楽しさに気付かせるような言葉をかける。</p>
5/27	<p>《砂場》</p>  <p>・T男が自分から進んで、R男やS子、Y子と一緒に砂場に深い穴を掘り水をためて、「温泉だぁー」「気持ちいい」と言って遊んでいる。</p>	<p>・多くの友達とかかわって遊ぶことができるようにと、砂場遊びを設定し、遊具を用意しておく。</p> <p>♥友達と遊ぶ楽しさがわかったのかな。よかった。T男はいろいろな遊びを考え出すな。今日もおもしろい遊びをしている。この遊びが広がり友達とのかかわりをもって遊んでほしいな。</p>

・穴を掘っているのはT男とR男ばかり、水を汲んでくるのはS子とY子ばかりである。

・「そっか」「じゃあ僕行ってくるね。」と言って水を汲みに行くが、一度水を汲んできただけで終わってしまい、結局またS子とY子が水汲みをしていた。

《ホール》



・たいこ橋、平均台、すべり台等で楽しそうに遊んでいる。特に、動くトンネルが気に入ったらしく、数人の友達と中に入ったり、押ししたりして遊んでいた。

・T男はK男とトンネルの中に入ることと争い、自分の思い通りにならずに泣く。

・しばらく泣きやまずにいた。

♥S子とY子は水汲みばかりで楽しいのだろうか。水を汲んでいる二人の様子を見ると楽しそうな表情なので、このまま様子を見ていることにしようかな？しかし、T男に自分ばかり楽しい思いをしないで、友達と交代しようとする気持ちをもって欲しい。

・「ずっとSちゃんとYちゃんが水汲んでるから、今度はT君とY君が水汲んできたなら。」とバケツを手渡す。

・雨が降っていたため、室内でも体を思いきり動かし、気持ちを開放して友達と一緒に遊べるようにと、ホールに巧技台を設定したところ子ども達は喜んで遊びに加わってきた。



・しばらくT男とK男の様子を見守っていたが、泣いて自我を通すT男の心をおしはかりながら、「我慢できるかな？」と言葉をかけ、思い通りにはならないこともあることを伝える。

♥まだまだ自分中心なんだな。どうしたら我慢する心が育つだろうか。気長に指導していこう。

・T男とR男が早速深い穴を掘り、ヒューム管を通して水を流しはじめる。「海だー！海ができたぞー。」

(T男らの隣で同じように、H男やA男らがヒューム管に水を流して遊んでいる。)

・「そうしよう。そうしよう。」と言って二つの海をつなげはじめる。

・R男がヒューム管の位置を変えようとすると、T男が「だめだよ。水はこっちから流すんだよ。」と強い口調で言う。

(しばらく遊んでから、R男、H男らは、「あっちで山つくろう。」と行ってしまった。)

10 /16 ・友達と4～5人で泥山で土を集めて、山を作って遊んでいる。

・「先生、水使いたい。」と言う。

・土の山に水をかけたり、シャベルで穴を掘って水を流したりして遊んでいる。そのうちにR男やA男と、泥だんごを作り始める。

・砂場遊びを設定した。友達と協力し、譲り合って遊べるように、ヒューム管をいくつか用意しておく。

♥T男のアイデアはおもしろい。いい発想をするな。H男達と一緒に遊べばいいのにな。

・「T君の海、すごく深いね。H君達のも深いよ。二つつなげたらすごく大きい海になるんじゃない？」

♥同じような遊びをしている二箇所の友達が一緒に遊ぶことで、友達関係が成立してほしい。

・T男がR男の気持ちも受け入れて遊べるようになるのはまだまだ難しいのかな。自我を少しずつおさえ、自分の気持ちをコントロールできるようになって欲しいな。

♥あーあ、また一人になっちゃったな。いつになったら友達と一緒に楽しく遊べるだろうか。

・そこでバケツやシャベルを出す。



・「先生見て！僕、おだんごできたよ。」「この砂かけると固くなるんだよ。」

(K男が「誰か水汲んできて。」と言う。)

・「僕が水汲んできてやるよ。」と言って走って水を汲みに行く。

・照れくさそうにして行ってしまった。

・「僕のおだんご固いよ。」「さわっていいよ。」とおだんごをもってくる。

・「僕のが一番遠くまで行ったよ。僕のおだんご壊れなかった。」

・「T君おだんご上手だね。先生におだんごの作り方教えて。」と言って、教師も一緒におだんご作りをする。

♥うれしい。T君が友達のために水を汲んできてあげようという気持ちになった。

・「T君水汲んできてあげたんだ。優しいね。」と友達のためにしてあげた行動を誉める。

・「ほんとだー。すごく固いのできたねー。」「じゃあ、山の上から転がし競争しよう。」と言って他の幼児も誘う。

(4) 考察

入園前の家庭生活では、自分の思いや願いがかなうことが多くあったであろう。しかし、幼稚園という集団の中に入った時、自分の思いが通らないことや、我慢しなければならないことが増えてくる。

T男も入園当初には、遊びや生活が自分中心であったのが、園生活を送るにつれて集団生活に慣れ、徐々に周囲の友達を意識して生活が行なえるようになってきた。

T男はすごく良いアイデアを持っていて、遊びが楽しく魅力的である。そこでR男達のように、T男の仲間になって遊びはじめるが、T男が自分の考えを強引に通す面があるので、楽しく一緒に遊んでいた友達も、だんだんと離れていってしまう。T男自身、自分の思いを強く出しすぎて、友達に受け入れてもらえないというさびしい経験や、また逆に、自分の思いを友達に受け入れてもらったという満たされた経験も味わっている。日々友達と遊ぶ中で、そのような経験を繰り返すうちに、友達と一緒に遊ぶことの楽しさがわかり、友達の思いを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら、譲り合って遊べるようになる心が育っていくのではないかと思う。

その為には、心を開放して伸び伸びと遊んだり、友達とじっくり思いを伝えあって遊んだりできるゆとりのある生活と、スペースや遊具等の物的環境が必要である。また幼児の感動を受けとめたり、幼児ができたことに対して、認めたり、誉めたり、友達とのパイプ役を任う教師という人的環境が最も大切であるということを感じた。

教師は幼児一人ひとりについて良く知り、幼児にとって今必要な物、必要な言葉は何か、それぞれの幼児がその時に必要としている環境や援助の在り方を、もう一度考え、友達とかかわりながら、生き生きと生活ができるようにしていきたいと思う。

実践事例 2

『積み木遊びを通して』

—友達との関わりができてきた頃の事例—

(1) 対象児

2年保育 4歳児 23名(男児11名, 女児12名)

(2) 時期 7月4日(金)

(3) 入園当初から6月迄の幼児の姿(活動の背景)

入園当初は、初めての集団生活で緊張や期待から気持ちが不安定になる子や入園以前の家庭生活の経験の違いから戸惑いを感じながら生活している幼児が見られたが、すぐに園生活に慣れ元気に遊べる幼児もいた。また元気のよい幼児の中には積み木やブロック等を投げたり、蹴飛ばしたりして乱暴に扱う幼児もおり姿は様々であった。

5月頃になると、自分が生活をする場所や身のまわりにいる先生や友達の名前も徐々に覚えて幼稚園の生活の流れもわかってくるようになった。また、新しい環境に慣れ、教師との信頼関係もでき、心が安定してくると自分からやりたい遊びを見つけて遊ぶようになった。ロッカーが隣同士だったり、同じ場で遊んでいる子とかかわり合う中で、おもしろい遊びをしている幼児の真似をして遊び、気の合う友達ができると物の取り合いや仲間に入れてくれないなどの意見のくい違いから喧嘩になることが多く見られるようになった。

6月になると、先生や友達にも親しみが増してきて、「先生みてて!」と自分に目を向けてもらいたくて要求をしたり、お弁当の時やお帰りの時に気に入った友達と一緒に隣に座りたがったりする様子が見られた。また、2、3人がかたまって遊ぶ姿や「入れて」の言葉を言って仲間に入れてもらおう等遊びのルールができてきた。

(4) ねらい

◎好きな遊びをしながら友達と触れ合う楽しさを知る。

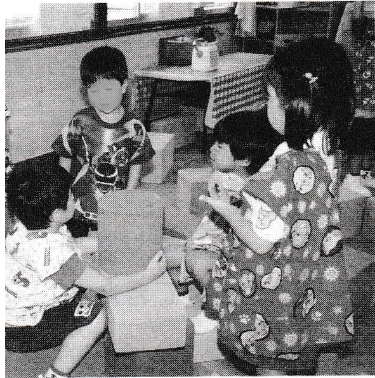
◎自分が思ったことや考えたことを先生や友達に言葉で伝えたり、態度で表す。

(5) 内容

- 自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。
- 自分と同じ遊びをしている友達と一緒にかかわって遊ぶ。
- 自分の思っていることやしてほしいことを先生や友達に話す。

(6) 幼児の姿から

♥…教師の思い

幼 児 の 姿	教 師 の か か わ り
<p>・登園後、身支度を済ませた幼児から好きな遊びを見つけて遊びだしている。いつものように男児数名が、積木で遊びだす。</p> <p>・積み上げたり並べたり崩したりして遊んでいるうちにY夫とH男が、一緒に乗物らしきものを作り始めた。</p> <p>・M男、T夫、I子がそばでそのようすを見ている。 Y夫「うん、電車だよ。」</p> <p>・Y夫が主になって作っている。座る場所ができ、長くつなげている途中で、H男が運転席らしきところに座ろうとした</p> <p>・H男の様子に気付き、「まだ駄目だよ座っちゃ！」と言って手で押し退けようとするが、H男はその場を離れようとはしない。</p> <p>・Y夫が「ぼくが運転手だぞ！」と主張するが、H男も「ぼくが（運転手に）なる」と言い張り、襟首をつかみあう激しい喧嘩が始まった。力付くで引きずり下ろそうとしたが一向に譲ろうとしないので、むりやりあいだに割り込んだ。</p>	<p>♥今日はどんな遊びや友達とのかかわりが生まれるか、楽しみである。</p> <p>・「何かできそうね。座るところがあるから電車かしら。」</p>  <p>♥このころは、自己主張が激しくなり同じ場で遊んでいても個々のイメージで動いていることが多いので喧嘩が生じやすい。このトラブルを通して相手の存在を知っていくよい機会なので、もう少し、二人の様子を見守っていよう。</p>

・M男「Y夫君が運転手だよ」と二人の様子を見て、M男がY夫の加勢をした。

・それを聞いておもしろくないT男は、Y夫を引きずり下ろし、自分がハンドル（円形の積木）を持つ。

・すると、M男はそのハンドルに見立てた積木をとってしまい、H夫と背中合わせに座ったY夫の前にその積木を組み立ててY夫が運転手になれるようにした。

・Y夫は「グイーン！」と言いながら、ハンドルに見立てた円形の積木を操縦して満足そうだ。

・Y夫に運転席を譲ったH夫は少々不満の様子だった。

・I子やK子も後ろの席に乗り、遊びに加わった。

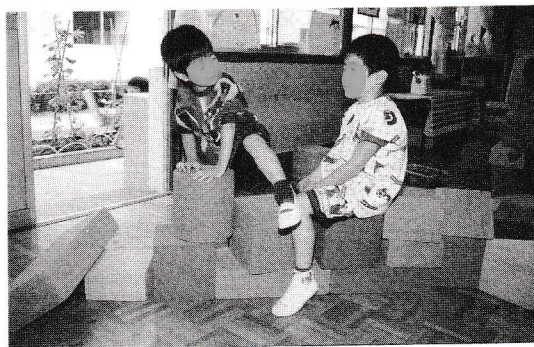
・T夫はそばで、Y夫とH夫が電車ごっこをして遊んでいるのを興味深く見ていた。

・T夫はH男のすぐ後ろに乗せてもらってしばらく電車ごっこが続いた。



♥M男の登場でどう遊びが進展していくのか楽しみである。

♥ここで遊びが終わってしまっただけでは、つまらない。声をかけようか迷ったがM男がハンドルをY夫の前においたことで、どう展開していくか、もう少し成り行きを見てみよう。



・「たくさんのお客さんがきたね。運転手さん！どこまで行くのかな」と声をかけた。

♥他の友達も加わってきたので、よりの遊びが広がってほしいな。

♥T夫は最初から積木のそばにいたので、きっと仲間に入りたいのだろう。

・「T夫君、電車に乗りたいの？」「それなら仲間に入れて！って言ってごらん」と促すが、不安そうにしていたので一緒にその場に行き仲間に入れるように見守った。

♥それまで、ずっとY夫が運転手になっていたのだから、さっきのH男の気持ちもY夫に伝えたい。

・「ねえ、H男君も運転手になりたかったんだって交替してあげたらどうかな？」とY夫の心をくみとりながら、H夫に対しても思いやる気持ちを持つように言葉をかける。

・Y夫「うん、わかった。」すんなりと席を譲る。H夫はとても嬉しそうな表情で運転席に座った。

・M男も運転手になりたくて、H夫に小さな声で「ぼくも運転手さんになりたいな。」と言った。

・H夫「うん、いいよ。」とすぐに替った。

・「よかったね。Y夫君ってやさしいね。」と、Y夫が席を譲ってあげたことに対して誉めてあげた。

♥H夫がY夫に対して譲ってくれてありがとうという感謝の心が持てるようになってほしい。

♥あんなに頑なに席を譲ろうとしなかったH夫が友達の要求を受け入れることができてとても嬉しい。

・「H夫君えらいね。」とM夫に運転手さんを譲ってあげたことを認めた。

(7) 考 察

大人の中で大事に育てられ、何でも要求が通る家庭環境にあったY夫と、のびのびして元気がよいがしつけに関しては殆ど放任の状態のH夫が、好きな遊びを通して意見がぶつかり合い、お互い譲らずの取り合いの喧嘩をしていた。その様子を教師は見守りながら、手助けが必要と思われたときに声をかけてあげたことで、素直に譲る気持ちになったと思う。譲ったY夫も、譲ってもらったH夫も「よかったねY夫君て、やさしいね。」という教師の一言で心地よい気持ちになり、あとからT夫が遊びに加わった時もすぐにH夫が運転席をかわってあげることができたことは、積木遊びの中でそれぞれが自分を出し、葛藤しながらも心の成長につながった結果ではないか。

一人一人の育ってきた家庭環境や発達が違う幼児が、幼稚園という集団生活の中で友達とぶつかり合い、かかわり合いながら、遊ぶ楽しさを知り、教師の仲立ちや援助によって、心も身体も育っていくのではないかと思う。幼児一人一人が生き生きと充実した毎日を送れるように、日々幼児とのかかわりの中で柔軟な対応と援助が必要だと思った。

2 5歳児

実践事例 1

『どんぐりを使った遊びを通して』

(1) 対象児

2年保育 5歳児 28名 (男児15名, 女児13名)

(2) 時期 9月25日(金)

(3) 2学期の様子

年長組になって、グループやクラスの友達と協力して行なう遊びや活動が多くなったが、一学期のうちはまだ相談することの意味が分からなかったり、自分の考えを上手く伝えられなかったりする幼児も多く、教師の援助がないとこのような活動が長続きできないこともあった。

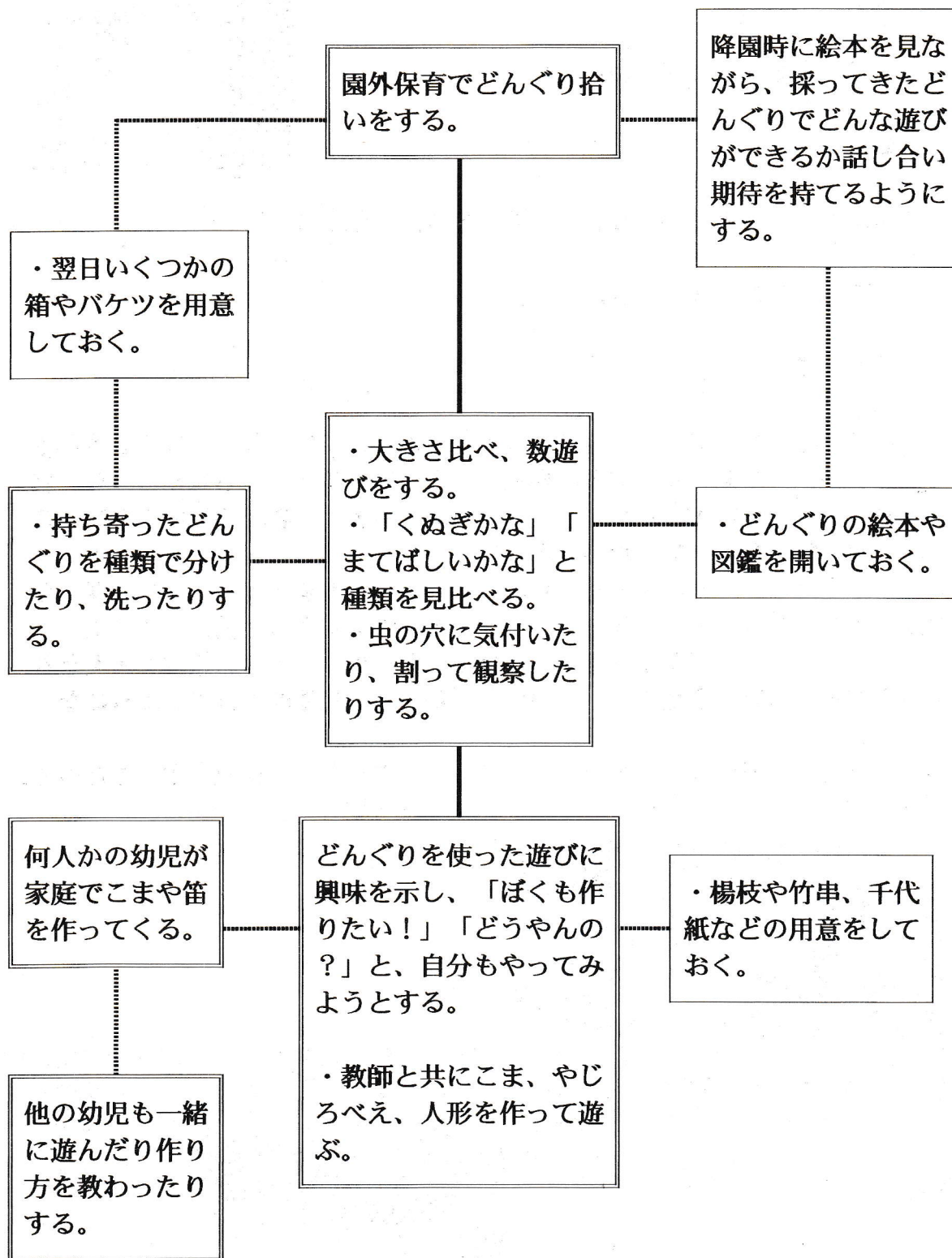
二学期になると、それまであまり親しくなかった友達やより多くの友達ともかかわろうとできるようになり、クラスの友達の輪がさらに広がってきた。

また、一人一人の幼児が落ち着いて物事に取り組んだり、根気強く考えたりする力が身についてきたので、一つの遊びが次第に長期間持続するようになってきた。

中には自ら先頭になって遊びをひっぱっていこうとする幼児が出てきたので、自分達で遊びを進めていくことがだいぶ多くなってきたようである。



(4) どんぐり遊びにおける幼児の姿



(5) ねらい

- ◎自分たちで集めたどんぐりを使って、より多くの友達と遊ぶ楽しさを味わう。
- ◎友達と相談したり、協力しながら自分たちの遊びを進めていこうとする。
- ◎考えやイメージを出し合いながら、工夫して遊ぼうとする。

(6) 内容

- どんぐりを使ってのゲーム作りを考える。
- 相談することで、友達とイメージを共有できることを知る。
- 自分の考えを他の友達に分かるように伝えたり、友達の考えをよく聞いて理解しようとしたりする。
- 相手の考えを受け入れたり、助け合ってやろうとする。
- 友達と協力して作ることで、よりおもしろいものができる喜びを知る。

(7) 活動の姿

♥…教師の思い

幼児の姿	教師のかかわり
<p>朝登園してくると、保育室に用意してあるどんぐりなどの材料の中に空き箱や木片のあることに気が付く。</p> <p>はじめ、一人一人りが木片を箱につけて迷路のようなゲームを作っていた。</p> <ul style="list-style-type: none">・出来上がったものを数人の友達とどんぐりを転がして遊ぶうち、お互いのものをトイレットペーパーの芯や厚紙の筒などでつなぎ合わせて、さらに大きなゲームにする幼児たちもでてきた。 <ul style="list-style-type: none">・ T男「もっと大きいのが作りたい。」 Y男「これでやる？」と傍らの段ボール箱をながめる。・ 「でも、深すぎるよ」「手が届かないからだめだよ」「むずかしそうだよ」と言いながら、自分たちのイメージにあった素材を探す。	<p data-bbox="890 1066 1289 1339"></p> <ul style="list-style-type: none">・ 「すごい、つなげたの？おもしろくなったね。」と、幼児の考えを認める♥友達と一緒に作るのも楽しいことを他の幼児にも知ってほしい。 <ul style="list-style-type: none">・ 幼児たちがどうしたらいいのか戸惑っているようなので、どのように作りたいのか会話をしながら、「じゃあ、これでどう？」と段ボール箱を開き、下に積み木を置いて滑り台のようにする方法を提示する。♥アイデアを提供したことで、幼児たちの思いを満たせただろうか。

・「うわー！大きい」「よし、どんぐりだ！」と感激しながら、上からたくさんのどんぐりを一気に流す。次の瞬間、数十個というどんぐりが保育室の床いっばいに転がり散らばる。

・「しまった！」「みんな、拾うぞ」「あーあ」と、必死で拾い集める。

・再び「いくよー！」とどんぐりを転がそうとするY男。

・T男「え～またやるの～？」

S男「そうだ、だめだよ」

・「またちらばっちゃうよ」「またひろわなきゃだめになっちゃうよ」

・H男「そうか、ここにこうして…」と下端に空き箱を3つ並べる。

それぞれの箱を3色に色分けして、一気にどんぐりを転がし「青がいちばん（多い）！」「赤こい、赤」など競い合っしばらく遊ぶ。それを見て他の幼児たちも、「ぼくも入れて」「やらせて」と仲間に入ってくる。

・S夫「あ、じゃあさっきのみたいに迷路にしたら？」と斜面の途中で曲げて付けてみる。

・上から転がしたどんぐりが途中で進路をかえていくのを見て「おもしろい！」「もっと付けよう」といろいろな材料を持ってくる。

・トイレットペーパーの芯でトンネルを作ったり、厚紙や箱で曲がり角を作ったりと、各児思いおもいに付けはじめる。

♥たくさんの幼児と一緒に関わって作ることのできる場を与えたい。

・このことをきっかけに、幼児自らが工夫して発展した遊びができないだろうか、どんぐりを一緒に拾いながら幼児たちが次にどうするのか様子を見守っていくことにした。

♥遊びを続けようとするY男の気持ちも汲み取って、遊びを進めてほしい。

・「うまいうまい、よく考えたね」とH男の発想を認め、遊ぶ意欲や自分の思いがだせるよう援助していく。

♥ただ転がすだけではなく、一緒に工夫を出し合いながらもっとおもしろいゲーム作りへと発展していかないだろうか。

・幼児のイメージがうかぶような、素材を用意しておく。

・「こんなのもあるよ」と、厚紙を細長く切ったものを見せる。

♥相談しながらやろうという気持ちが持てないだろうか。

- ・「うんいいよ」「わかった」
- ・「じゃあ、ここはどうするの？」と友達に聞いてからやろうとする。

・ J男が突然斜面の真ん中に切り込みを入れはじめる。

H男「なんでJ男くん、そこ切るんだよ！」 S夫「そうだよ、勝手にやらないでよ」

J男「だって…」

・ J男「あのね、ここんとここにどんぐりが落ちればおもしろいよ…」

・ H男「でも、落ちちゃったらおしまいじゃん」 S夫「そうだよ、下にいっちゃうよ」

J男は黙ってうつむく。

・ T夫「あ、いいこと考えた！」ゼリーのカップを穴にはめてみせる。「これで落ちないよ」

・ T男「でもさ、それじゃその中にはいんないんじゃない？」

H男「たかいんだよ」

T男「ば～んってあたって、ひよろひよろ～っていっちゃうんじゃない？」

・ S雄「あー！わかった。それじゃこうすりゃいいんだよ」とカップを穴の下から当ててみせる。

・ 「うわー、おもしろい！」「それでいい、おれもやる！」他の幼児も大賛成。

・ S雄「でも、難しいよ…」セロテープでカップを貼ろうとしたが一人では上手くない。

・ 「あらおもしろい！」「よく考えついたね」とそれぞれの工夫を認める。

「先生これ付けていい？」と聞きにくる幼児には「みんなに聞いてごらん」と促したり、「ねえ、Y夫君が、いいこと考えたって」とY男の考えを認め他の幼児に知らせる。

・ J男は、どんな遊びを考えているのだろうか。意欲的に取り組みだしたJ男の気持ちを押し量りながら、「J夫君、みんなに聞いてからにしたら？」

・ 「ああなるほど…」とJ男のアイデアに共感する。

♥ J男のアイデアもおもしろいな。誰かこのアイデアを生かせないだろうか

・ 「ねえ、みんなも考えよう。どんぐりが落ちなければいいんだよね」とJ男の考えを認め教師も一緒に考える。

・ 幼児たちからいろいろなアイデアがでてくるように会話のやりとりを聞きながら様子を見守る。

・ 「すごい、S雄君。」とすばらしいアイデアを出した幼児を賞賛する。

♥ 他の友達の意見を受け入れたり、自分の思いを出したりして遊んで欲しい

「ねえ誰か手伝って」「うん、ぼくが押さえてやるよ」などと、協力して作る姿が見られる。

・T夫とT男がペットボトルを教師に切ってもらい、てっぺんに取り付ける。

・ペットボトルの口を指して「ここからどんぐりが発進するの。」「試してみよう」とどんぐりを1個転がしてみたが、入り口の手前のくぼみに引っ掛かって上手く出ない。

・Y男「なんだ、駄目じゃないか」

・S雄「反対にしてみたら?」「うん、それがいい」とペットボトルをひっくり返し、口の部分からどんぐりを入れようとする。「はいらないよ」「やっぱり、さっきの方がいいよ」「できないんじゃない?」他のものを付けていた幼児も加わってくる。

・「よくわかんない」いろいろに置き換えて試してみるが、イメージが湧かない様子。

・しばらく考えていたが、「こうかな」と高く斜めに持ち上げる方法に意見が集まる。「うん、僕もそう思う」

・「1個入れてみて!」斜めに持ち上げた方にどんぐりを入れると、勢い良く転がり出す。「ワーイ、ヤッター」と喜ぶ



・「こういうときはね、誰かが押さえるとうまくいくよ」と力を貸し合って作る方法を知らせる。

♥遊びの中でお互いを必要とし、相手の気持ちを汲む心が芽生えてきたようだ。

・「どうするの?」他のみんなにも伝えられるよう促す。

♥遊びが発展するように考えたT男達の発想をけなしたY男も一緒にうまくいく方法を考えようとする気持ちをもって欲しい。

・いろいろと考えながら試行錯誤している姿を見ながら、幼児には難しいようであると考え助言する。

・「よく見て、この置き方だから止まっちゃうんじゃないかな?」とペットボトルの平らな様子を手で表してみせる。

・ペットボトルを斜めにしたり平らにしたり、いろいろな方法をもう一度ゆっくりとやってみせながら、「どっちの方がよく転がるかな?考えてみて」と問い掛ける。

・「ほんとかなあ、試してみたら?」と、実際にやって確かめるといいことに気付かせる。

♥子ども達が考えたり工夫したりしてきたのだから、うまく転がって欲しい

・「わーすごい大成功」と幼児と共に喜ぶ。

・その後空き箱を下に取り付けてスターも完成し、どんぐりを転がして遊びはじめる。作っていた幼児たちをはじめ、クラスの他の幼児たちも「すごーい!」「やらせて」と仲間に加わり、少しずつ補充や修正を加えながら、数日間このゲームでの遊びを楽しむ幼児たちの姿が見られた。

♥途中であきらめずに遊びを続けることができるようになってきてうれしいな。これからもみんなで協力して遊べるようになって欲しい。



(8) 考察

仲の良い友達同士でも、協同で何かを作るということになると、なかなか考えを上手く伝え合えずに遊びが続かなかったり、一人ふたりが独断で進めていってしまったりすることが多かった。しかし今回は、『自分たちでたくさん集めたどんぐりを使って遊びたい』『段ボールの斜面にこんなゲームを作りたい』という共通の目的が持てた。また、作りたいものがイメージしやすいものであったため比較的簡単に考えを共有でき、一人ひとりが意欲的に取り組み、根気よく問題を解決しようと考えたり、意見を出し合ったりする姿が見られた。

中にはまだ、いい考えが浮かんでも上手く友達に伝える方法が見つけられない幼児、他人への指摘はしてもそれならどうすればいいのか考えようできない幼児もいる。

そんな時、教師のヒントで再び工夫しようとする姿が見られ、良い発想が生まれるのだと感じた。また、教師や仲間アイデアが認められたことで自信がつき、さらに意欲的に遊びにかかわろうとする幼児の姿も見られた。

今回の遊びは幼児たちから生まれた遊びであり、試行錯誤しながら友達とアイデアを出しあって完成させたこのゲームは、幼児たちにとってとても誇らしいものとなった。実際に作っていたのは男児がほとんどだったが、その後加わってきた女児たちも好意的に交えて、数日間クラスのみんなで楽しむことができた。

この活動を機に、何かをする時友達に相談しようとしたり、友達と手を貸し合ったり分担し合ったりやろうとする姿勢が身についてきたように思う。この遊びに見られるような一つひとつの障壁の積み重ねが、幼児たちの前進のきっかけとなって、次の活動に生かされていくものだと感じた。



3 研究の実践

事例 1 テレビ視聴

“こどもにんぎょう劇場「きかんしゃやえもん①②」”

(1) 対象児

2年保育4歳児 18名(男児8名、女児10名)

(2) 幼児の姿

初めての集団生活から次第に幼稚園の生活の流れが分かってきて、先生や友達と一緒にいることや同じ事をするのが楽しくなっている。また、物の取り合いや仲間に入りたくても入れてくれない等のトラブルや、イメージや意見の食い違いから遊びが中断してしまうこともしばしば見られた。



(3) 一斉視聴

『きかんしゃやえもん①』 6月21日(月) 10:30~10:45

テレビの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
オープニング 曲と歌が流れる。	「あっ、影みたい。」 「トーマスみたいだ。」 シュッシュッシュッシュッと手を動かす	「本当ね。」とうなずく。 教師も一緒に機関車の動作をする。	自分も機関車やえもんになったつもりで体を動かす。音楽に合わせて体を動かすことを楽しんでいる。
やえもんの顔のUP。 電気機関車にからかわれる場面。	「おもしろい顔。」 「おばあちゃんみたい。」 「どうして顔が変わるんだろう。」 真剣な表情で見ている。	にこにこして見る。	
やえもんがかっかかっか怒った場面。(音楽)	子ども達もいっしょになって肩をいからせ、怒った表情でやえもんの動きをまねていた。	教師も幼児と同じ気持ちで動きをまねる。	やえもんと同じ気持ちで興奮している。
火事になってしまった場面。 「悪かった」と謝って終わる場面。	静かになって真剣に見る。 「ばかにしちゃいけないだよね。」と近くにいる子に話しかける。 「うん、やえもんがかわいそうだよ。」	「やえもんはどうなっちゃうんだろうね」と投げ掛けて終わる。	火事になってしまった展開にびっくりしている。 話の内容を理解して出た会話(やえもんを馬鹿にしたことから火事になったこと)

『きかんしゃやえもん②』 6月28日(月) 10:30~10:45

テレビの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
	登園してきたK子が、 「先生、あのやえもんのお話いつやるの？」と聞いてきた。 「わあい、やえもん今日やるんだって！」喜びながら、友達に知らせていた。 TVの前に座る。	「今日だよ」 「楽しみだね」	やえもんのテレビを早く見たいと心待ちにしていた。

オープニング	子ども達の目が輝きだし、それぞれがやえもんの話を始めた。 「顔が変わるんだよね。」 「鼻がおもしろい。」 「真っ赤になった。」 「火事になっちゃったんだよね。」 「だってしゃあのお声がおもしろかった。」 「早く見たいな。」	「そう、そんなにおもしろかったんだ。」 「さあ、これからやえもんのお話が始まるよ。」	一人一人が自分の思いを教師に聞いてもらいたい。
曲と歌が流れる。	曲に合わせて楽しそうに機関車の動きをする。	幼児と一緒に楽しく体を動かす。	やえもんのテーマ曲が大好きになったようだ。
先週の話の概要からお話が始まる。	静かに聞く。		
曲と歌が流れる。しだいにやえもんが怒って火事になってしまう場面。	曲に合わせてまた動きですが、手の動きを止めて静かに見る。 しばらく画面をじっと見る。	同じ気持ちでいることをうなずきながら目で知らせる。	緊迫して声も出ない。
やえもんが泣く場面。	「かわいそう。」「泣いちゃった。」 小さな声でつぶやいた。		
肩鉄にならずに済んだ場面。	騒つく。		緊張がゆるむ。
やえもんの楽しい曲と歌が流れる。	音楽にのって楽しく踊る。	「やえもんが肩鉄にならずに済んだね。」	



視聴後も「きかんしゃやえもん」にとっても興味をもち、遊びの中で空き箱をつなげて、「先生、やえもんができたよ。」と作ってみせたり、絵に描いたり、粘土で作ったりしていた。この様子から、共通のイメージをもって友達同士が関わりながら楽しく遊びが発展していったらいいなと思い、ダンボール箱でやえもん機関車を作って、幼児の目に付くところに置いておいた。また、テレビからやえもんの歌をカセットテープに録音しておき、いつでも遊びの時に曲を流せるようにしておいた。

(4) 「やえもんごっこ」の遊びへ

7月1日(木)

幼児の遊びの様子	教師の願い	教師のかかわり	読みとり
<p>登園してきたK美がやえもんに気づく。 「わあ、先生、やえもんだ。先生が作ったの？」</p> <p>「ねえ、やえもんがいるよ。大発見だよ。」と次に登園してきたM子やS子に知らせていた。</p> <p>やえもんの顔を見て、 「ほら、笑っているよ。先生が作ったんだって！」とM男達に言うと、 「ダンボールで作ったんだよね。」と言いつつ、 「さあ、さっそくM男とA子とJ男がやえもんに乗込み、床をずるように走る。 「きかんしゃやえもん、出発！」</p>	<p>気付いてほしい。</p> <p>他の幼児にも知らせしてほしい。</p> <p>遊びが盛り上がってほしい。</p>	<p>「うん、そうだよ。」</p>	<p>とても喜んでいる。</p>

<p>その様子を見ていた他の幼児も「ぼくも乗りたい。」「わたしにも乗せて。」と次第に遊びに参加する幼児が増え、廊下やお部屋の中を走り回っていた。</p> <p>「怒ったしゃあー！」と言いながら、スピードを出して走る幼児や、椅子に座って順番を待つ幼児が見られた。</p> <p>しばらくやえもんごっこの遊びが続く。</p> <p>N也が残っていたダンボール箱をみて、「先生、これで新幹線を作りたい。」と言いつ出す。</p> <p>「こういう風にとがっているんだよ。」と手振り以示した。</p> <p>そばでみていたN男が図鑑を持ってくる。</p> <p>N男「ここに丸いのが付いているよ。」</p> <p>さっそくオレンジ色のカップを持ってきてあててみると、N也が「こだま号だ。」と喜ぶ。</p> <p>その後、ダンボール箱を絵の具で塗っていると他の5、6人の幼児も一緒に手伝った。</p> <p>また、箱をつなげる事でガムテープにするか、紐でつなげるか意見が対立したとき、M子が、高さが違うから紐でつなげたほうがよいという意見を言う。</p>	<p>具体的にイメージをしているものを引き出している。</p> <p>イメージにあった物があるといいな。</p> <p>いい発想だな。他の幼児にも興味をもってほしい。</p> <p>子ども達の意見を尊重したい。</p>	<p>危険のないように見守ろう。</p> <p>やえもんの歌を流す。教師も一緒に共感したり、お客さんになって参加したりする。</p> <p>「どういう形をしていたっけ？」</p> <p>「絵本とか図鑑で見てもよ。」「こんな感じかな？」ダンボール箱を三角に折り曲げてみせた。</p> <p>「いいところに気が付いたね」と認め、「じゃあ、あの箱の中に何かあるかもしれないよ。見つけてきてごらん。」とヒントを与えた。</p> <p>教師もその意見に賛成して紐でつなげることにした。</p>	<p>おもしろそうだから仲間に入ってみよう。</p> <p>テレビ視聴をしたときの場面を思い出して表現をしているのだろう。</p> <p>やえもんの機関車をヒントにダンボール箱で電車を作ってみたくなった。</p> <p>絵の具で塗るのは楽しそうだ。</p> <p>信頼のあるM子と教師も賛成したことでみんなも納得した。</p>
---	---	---	---



降園時に、今日の遊びの中で『やえもんごっこ』について触れ、みんなでやえもんに乗って遊んだ事や新幹線を作った事を話すと「おもしろかった。また乗ってみたい。明日もやりたい。」という意見や「駅や線路がないとだめだよ。」という意見もでた。そこで、明日は園庭に線路や駅を作って遊ぶ事を約束して降園した。



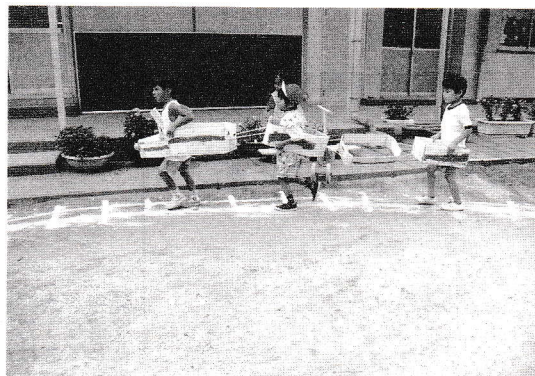
7月2日(金)

園庭にやえもん機関車と新幹線を並べておいておく。朝登園してきた子ども達は着替えもそこそこに乗り物で遊び出した。運転手になりたがる幼児が多く、取り合いのけんかになったり、スピードを出しすぎて後ろに乗っていた幼児が転ぶ等のトラブルが生じた。そのため、どうしたらよいかを一緒に考えたり、ヒントを与えたりして遊びがおもしろくなるよう援助した。また幼児と一緒に線路を描いたり、駅を作ったり他の幼児も誘ったりして園庭での電車ごっこに遊びが広がった。

(5) 気付いたこと

- ・オープニングの場面で子ども達の興味がある乗り物の話だったことや“機関車トーマス”に似ていたことで親しみを感じた。

- ・この人形劇は普段見慣れていない影絵を使ったお話で、やえもんの顔の表情が変わるところや、火事になったり怒ったりすると赤く画面が変化するところなどがうまく表現されていた。
- ・「ぼくだってしゃあ、むかしはしゃあ」「おこったしゃあ」の言葉遣いが繰り返し使われていておもしろく、興味をもった。
- ・途中で何度か流れる曲がテンポ良く、自然に体が動き楽しくさせた。
- ・火事になってしまったとき、「どうしよう」「たいへんだ」と緊迫した気持ちになり、しくしく泣いて困っているときや屑鉄にされてしまうのではないかとこのときには、無言になって画面に見入り、「かわいそう」という言葉が出たり、主人公と同じ気持ちになっているのが幼児一人一人の表情から伺えた。
- ・2回に渡ってのお話だったが、楽しみに待つ姿があった。
- ・“きかんしゃやえもん”のお話を通して共通の話題ができ、友達とかかわって遊ぶきっかけになった。



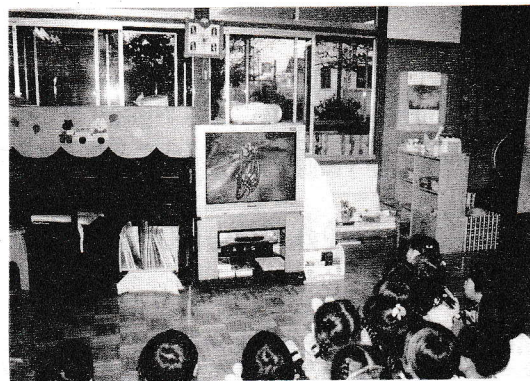
事例 2 ビデオ視聴
“いきもの図鑑「あげはちょう」”

(1) 対象児

2年保育4歳児 18名(男児8名、女児10名)

(2) 幼児の姿

久しぶりの幼稚園で、うれしそうに登園してくる幼児や夏休みの出来事を教師に話そうとしている幼児やちょっと緊張が見られる幼児等様々な様子が見られた。また、花壇には6月末に蒔いたニンジンの種が発芽し、夏休みの間に葉が大きく成長していた。ニンジンの種を蒔く前にハツカダイコンを収穫した際、葉にモンシロチョウが卵を産み付け、あおむしの幼虫がたくさん産まれた。その時幼児と共に幼虫を飼育ケースに入れ、さなぎから羽化して蝶になるまでを観察した経験がある。



(3) キアゲハの幼虫を発見

9月1日(木)

幼児の姿	教師の願い	教師のかかわり	読みとり
N男「先生、葉っぱに何か虫がいたよ。」 ニンジンの葉を指差す。 N男とM子が早速昆虫図鑑を持って来る。 「先生これじゃない?」「これかな?」 花壇のそばで幼虫と見比べながら探していた。 J男「持ってみたいよー。」	誰か気付いてくれるといいな。 他の幼児にも知らせたい。 モンシロチョウの飼育経験が生かされるといいな。 昆虫が大好きで好奇心旺盛なJ男の欲求を満たしてあげたいが触っても大丈夫なものかどうかを聞いてからにしよう。	「えっ、どこにいたの? 教えて!」 「わあ、本当だ。ねえ、みんな! N男君が虫を発見したよ。」 「何かの幼虫だね。図鑑で調べてみよう。」 幼虫が載っているページを開き、「どの幼虫かな?」と幼児と一緒に探す。 「アゲハチョウの仲間だねほら、似ているでしょ。ニンジンの葉っぱにいるのはキアゲハと言うチョウだって書いてあるよ。」 園長先生や主任先生に何い触っても皮膚等には大丈夫だが触ると弱って死んでしまうということなので子ども達には見るだけにする話を話す。	N男は虫にたいへん興味をもっている幼児なので、すぐに気が付いた。 以前、カマキリのあかちゃんを握っていて死にかけた事があったので、かわいそうだという友達の忠告を素直に聞き入れた。
J男「やだ、持ちたい。」と言い張った。 K子「そうだよ。死んじゃったらかわいそうだよ。」 J男は渋々納得した。	生命の大切さをわかってほしい。	「人間の手で触っていると弱って死んでしまうんだって。だからそうっとしておいてあげようね。」	

H男「先生、これ何？」黒い幼虫を指差して聞いた。	よいことに気が付いてくれた。図鑑に載っているのと比べてみよう。	「これも幼虫なんだよ。ほら、図鑑にも載っているよ見てごらん。」幼児と一緒に卵から成虫になるまでの経過を目で追う。 「よく知っているね。M子ちゃん。」	自分の知識を教師に伝えたい。
M子「卵から幼虫になって、さなぎになって、皮を破いてチョウになるんだよ。」			



9月2日(木)

幼 児 の 姿	教 師 の 願 い	教 師 の か か わ り	読 み と り
<p>登園して身仕度がおわったT男が、「先生、幼虫がチョウになっているか見てくる。」 「まだ幼虫だった。」 「こんなに大きいのがいたよ。」 「ここにもいた。」</p> <p>J男が糞を見つけて、「うんこがあった」とうれしそうに笑いながら言う。周りの幼児も興味深く近づき、「何処何処？」と一生懸命糞のある場所を探していた。 J男「幼虫が今うんちをしたよ。」</p> <p>K子「本当だ。ここ見て！みんな食べちゃって葉っぱが棒だけになっちゃったよ。」</p> <p>M子「それでさなぎになって皮を破ってチョウになるんだよね。」</p> <p>J男「あっ、オレンジ色のつのをだした。おもしろい。」棒で突いたり葉っぱで突いたりしてつのを出すのを面白がっていた。その内、「何か臭いね。」と口々に言いだす。</p> <p>K子「そんなに突っ突いちゃ駄目だよ！」</p> <p>一緒になってつの出しを楽しんでいたT也やN男もK子や教師の言葉にはっと気が付き突くのをやめた。</p>	<p>幼虫に興味をもってかわかってほしい。</p> <p>幼虫の生態を知る手がかりになるので、よく観察をしてほしい。</p> <p>幼虫が食べた葉の様子にも目を向けたい。</p> <p>生きているものへの思いやりも育てたい。</p>	<p>「どうだった？」</p> <p>「わあ、昨日よりも大きくなっているね。」と幼児の驚きや気付きを受けとめる</p> <p>「すごく大きいうんちをするんだね。」とびっくりする。</p> <p>「ほら、この幼虫、葉っぱのご飯を食べているよ。」</p> <p>「本当ね。たくさん食べて大きくなるんだよね。」</p> <p>「モンシロチョウの時もそうだったね。」</p> <p>「そうね。みんなが突っ突くので幼虫が恐がって角や臭いを出すんだよ。」とわかるように話す。 「そっとしておいてあげようね。」</p>	<p>昨日の経験が虫への興味につながっている。</p> <p>幼虫も自分たちと同じように糞をすることを知った。</p> <p>モンシロチョウの飼育した経験を思い出している。</p>

(4) ビデオ「あげはちょう」を見てみよう (一斉視聴)

キアゲハの幼虫はニンジンの葉をほとんど食べつくし、色も黒から黄緑と黒のしま模様をした色あざやかな幼虫に変化し大きさも5cmぐらいまでになっていた。子ども達は、あちこちでこの幼虫がニンジン畑から移動しているところを発見したり、壁に昇ってじっとしているところやさなぎになって糸を出している場面に遭遇したりして、関心が非常に高まっていた。このように、ニンジンの種を蒔いて栽培したことからキアゲハが葉に卵を産み、幼虫からさなぎへやがて成虫へと変化するところを毎日の生活の中で見る事ができた。そこで、“いきもの図鑑『あげはちょう』”のビデオをしてみることにした。

9月20日(月)

ビデオの場面	幼 児 の 言 動	教 師 の か か わ り	読 み と り
野原でアゲハチョウが翔んでいる。	チョウがひらひらしているのをまねる。 「うちにも翔んでた。」	楽しそうな表情で見る。時々幼児の発言にうなずく。	親しみをもって見ている。
アオスジアゲハが翔んでいるところ	「あっ、幼稚園にいたよ。」		

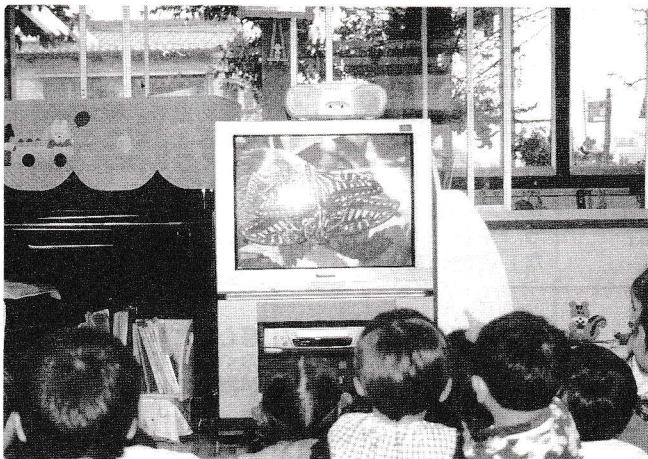
おしっこをする。	「おしっこした。」		
花の蜜を吸うところ。	「おいしいよ。」 「吸ったことあるよ。」		
カマキリがチョウを狙っている。	「あっ、カマキリが狙ってる。」 子ども達が緊張した面持ちでみている。	『あっ、どうしよう』という表情をする。	
チョウが2匹で翔んでいる。	「絡まっちゃった。」 「雄と雌だ。」	にこやかに目を細めて見る。	交尾の場面で、何となく結婚をするという意味に漠然ととらえている。
葉の上にチョウが卵を産み付ける場面。(黄色く真丸な卵)	一瞬息をのんで見ていた後、「お月さまみたい。」と感想をもらす。 「柄が見える」	『あー!』『わあ!』感嘆語意外に言葉がなかった。感動して一点に引き込まれていった。	感動して思わず出た言葉である。
殻の中から幼虫が出てきた。	「わあ、出てきた。」画面に引き付けられていた。		
幼虫が殻を食べて出てくる。	「栄養があるの?」	「うん。そうだね。」 『先生も初めて見たんだよ』という気持ちを込めて伝えた。	自分の殻を食べるシーンを見て不思議に思い自分なりに考えて言った言葉である。
1れい幼虫から脱皮してしゅうれい幼虫へ。	「脱いでチョウチョになるんだよ。」 「はだかになっちゃう。」		
	「うーん、よいしょ。」と皮と脱ぐ所では幼虫と一緒に力が入っているような表情をして見守っていた。 「あおむしだ。」	幼児と同じ気持ちで見守る。	
オレンジ色のつを出す	「幼稚園にいるのと同じだ。」		実際につを出すことを経験していることから出た言葉。
幼虫からさなぎへ。	「同じだね」	うなずき、「糸が見えるね。」と画面に集中させる。	
さなぎから成虫へ。(音楽が流れる)		感動して食い入るように見る。	
さなぎのからだ縦に割れたとき逆さになって羽を乾かしている場面。	「あっ、われた。」画面に集中する。 「でた。でた。」「まだ翔べないんだよね。」「出たばかりだからね。」などと近くの友達と話す。		自分の持っている知識を言葉に表している。
チョウの羽のUP。	「きれいだね。」	「うん。」深くため息をつく。	

5) 視聴後の幼児の姿

毎日、朝登園してくるとニンジン畑をのぞき、幼虫がどうなったか見て「昨日よりも大きくなったよ。」「葉っぱがだんだんなくなってるよ。」などと様子を知らせにきたり、遊んでいるとき地面をはっている幼虫を見つけて「先生、こんな所に幼虫が歩いている。」とか、「先生、壁につかまっている幼虫がいるよ。」など子ども達の気付きによって幼虫が移動してさなぎになる準備をしていることがわかり、急いでさなぎになる場所を作ってあげることにしたがこちらが思うような場所ではさなぎにならなかった。ある時、年長組さんの畑で、まさに幼虫が皮を脱ぎさなぎに変わろうとしているところを年長組の幼児が発見し知らせてくれたので、みんなに声を掛け、見に行った。それは一瞬の出来事だったので、一部の幼児しか体験できなかったが貴重な経験ができた。その後も様々な場所でさなぎになっているのを見つけ、いつアゲハチョウになるのかなと時々幼児と様子を見に行き、チョウになる日を楽しみに待った。ある朝、さなぎからチョウになってとまっているのを発見し、羽を広げて翔んでいく姿を幼児と共に感動的に見送った。その際、「チョウチョさん。元気だね。」「カマキリに食べられないようにね。」「幼稚園にもまた遊びにきてね。」等と口々に親しみを込めて言葉を掛けていた事が印象的だった。

6) 気付いたこと

- ・保育室のすぐ前に畑があり、いつでも幼児の目に触れることができたため、ハツカダイコンやニンジンなどの野菜を栽培したとき、毎日畑に行って、芽が出たかな？、土が乾いているから水をあげよう、葉っぱが大きくなったなど関心をもってみるようになった。このことから、モンシロチョウやキアゲハの卵や幼虫を幼児自ら発見することができた。
- ・一人一人家庭での経験や知識の違う幼児が、幼稚園で生き物のありのままの姿に出会い、実際に触れたり、間近に見たりしたことで、ワクワクドキドキしたりして心を揺り動かされ、教師や友達と感動を共有することができた。またわからないことを図鑑で調べたり、ビデオで認識を新たにしたり、再確認をしたり、その後もよく見ようとする気持ちが芽ばえた。
- ・同じ体験ができたことで、教師や友達に思いを伝え合う喜びを感じることができた。
- ・キアゲハの成長を通して、生き物への関心が高まったと同時にやさしさや思いやりの気持ちが芽生え、言葉遣いや行動が乱暴だったJ男も友達に対してやさしく接することができるようになり変容が見られた。



事例 3 ビデオ視聴
 “しぜんとあそぼ「にわとり」”



(1) 対象児

2年保育5歳児 21名(男児9名、女児12名)

(2) 幼児の姿

年少の頃から園で飼育しているチャボやウコッケイと喜んで触れ合っていた。年長組の飼育当番が刻んだえさを一緒にあげたり、チャボを抱っこしてかわいがったり、産みだての卵を順番に持って帰るのを楽しみにしていた。

年長になり、春休みに産まれたひよこに大喜びで毎日のように飼育小屋に通う幼児が多くみられたが、中には無理に抱いたり追いかけたりしてしまう幼児もいた。

(3) 一斉視聴

『にわとり』 5月10日(月) 13:00~13:15

♥幼児たちがいま興味をもっているニワトリに対し、さらに詳しく知ることで、より興味を持ったり、いたわりの気持ちを持って接して欲しい。また、これをきっかけに飼育当番への意欲を掻きたて、自ら進んで世話をしようという心が育って欲しい。

ビデオの場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
オープニング	「あ！ニワトリ！」	幼児たちと共に、うれしい表情で見る。	自分たちの良く知っているニワトリが出てきたことに喜んでる。
親子で散歩の場面 ・「なにかニョロニョロしたもの見つけたぞ？ミミズだ！」 「長くて食べにくい」 ・「砂浴びをしてるんだ羽の中まで砂だらけ」	「かわいい！」 「いっぱいいる」 「ミミズだ」 「おそばみたい」「スパゲッティー」 「つるるんって食べてる」 「くろちゃんみたい」 「気持ち良さそうだね」「お風呂だ」		食べ方を面白がっている。 園にいるチャボとダブらせている。
産卵の場面 ・「お尻をヒクヒク、何が始まるのかな？」 ・「あ、見て見て、卵するっと卵が落ちる。」「ニワトリって、こうやって卵産むんだね」 ・くちばしで、卵を抱える。「大切に、大切におなかの下にしまいこむお母さんニワトリ」 ・「こうして3週間、ずっとおなかの下で卵を温め続けるんだって」	不思議そうに見ている。 T夫「あっ、卵でてくんだよ！」 「あー！」声を揃え、拍手。 「きれいだね」「つるつるしてる」 「あ、卵抱くんだよ」 「コツコツっておなかに入れてる」 じっと見ている。 「ふうん」	幼児と同じく驚きで目を輝かせる。 母どりの様子に気付くよう「あれ？何してんのかな」と問い掛ける。 「3週間もだって！」と驚く。	最初何だか分からなかった幼児も、卵が突然産み落とされたことにびっくりしつつ、感動している。
卵の孵化の場面 ・「ピョッピョッ」と卵の中から聞こえる。 ・コツコツと音がし、外側の殻が破れ内側の白い皮が見える。 ・「中のひよこが現れ始めた。…何時間もかか	聞耳をたてる。 「あー！」とびっくりする。 「ひよこが出てくるんだよ！」 「ひよこだ」 「くちばしだ」	「あれ!？」と注意を促す。	感心している反面、どのくらい長いのか感覚が掴めていない。 卵が返るのだとすぐに察し、期待感で満ち溢れている。

<p>って一生懸命殻を割るんです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「後もう一息だからねがんばって」 ・「やったあ！とうとう出てきました」 	<p>真剣な表情で聞いている。「がんばって！」ハラハラした表情で教師を見る。</p> <p>「出てきた！」と皆で大拍手。笑顔で画面を見つめたり、周囲と視線を合わせたりする。</p>	<p>「がんばってるね」と頷く。喜びの表情を交わす。</p>	<p>なかなか出てこないことにじれったさを感じている。ひよこがやっと産まれたことへの喜びを共感している。</p>
--	--	--------------------------------	--



視聴直後、どんなところがおもしろかったかの教師の問いに、「卵がコツコツってわれたよ」「でも、すぐ出てこなかった」「ミミズをおそばみたいに食べてたよ」などそれぞれに印象に残った場面を教えてくれた。

また、卵を温める3週間という長さを身振りで伝えると大変驚いて、「ずっとなの？」「すごい！」と母どりに対する感心や尊敬の声があがると同時に「くろちゃんも、このまえの時こうやってたのかなあ」「あっためたんだね」「3週間も？」「いつもおなかに入れてるよ」と園にいるチャボに対する言葉も聞くことができた。

翌日から始まる飼育当番に対しても「皆で育てれば大きくなるよね」「早くやりたいなあ」と期待が膨らんだ様子だった。



翌日最初の飼育当番になったH子は、家からたくさんのおえさを用意してきて、朝から「飼育当番やる」と意欲的に取り掛かった。他の幼児もまわりによってきて「小さくしてね、ひよこちゃん用に」「いいなあ、あたしもやりたいなあ」「ぼくも一緒に行きたい？」と関心を示していた。

また「ミミズが好きなんだよ」「先生、ミミズの方が喜ぶよ」と、自分たちでたくさんミミズを探してきては、「ほんとにおそばみたいに食べたよ！」「もうたべちゃったよ！」「足りないんだよ」と、放送の内容を思い出してやってみる幼児もいた。

飼育当番を順番にしていくことで、それまで恐くて関わろうとしなかった幼児も、手でえさをあげようとしてみたり友達に教わって抱っこしてみたりするようになってきた。毎日飼育当番についていって一緒に水を替えたり無理に抱いたり追いかけたりする友達に「いたいよ」「今いやだって」と注意する幼児の姿もみられる。

(4) 気付いたこと

- ・自分たちが毎日触れ合って親しみをもっているニワトリの内容だったので、より高い関心をもって見ることができた
- ・産卵や孵化の瞬間の驚きやじれったさの感情を友達と一緒に味わうことができた。また、テレビの中のニワトリや園にいるチャボに対しても共感する姿が見られた。
- ・視聴後、チャボへの親しみや思いやりが増し、やさしく関わったり、自分から世話をする幼児が多くなったことからちょうど幼児の生活にあっていた内容だったのだと思う。

事例 4 紙芝居視聴 “ディズニー名作劇場「力持ちのポール」”

(1) 対象児

2年保育5歳児 21名(男児9名、女児12名)

(2) 幼児の姿

ちょうど運動会のシーズンで、この日は初めて綱引きの練習をした。保育室に帰ってからも「カー杯ひっぱったんだよ!」「もっともっとお弁当食べて、力つける!」「先生、ぼく力持ちだったでしょ?」と口々に興奮を語っていた。

幼児たちが自分の腕の力を意識していた様子から、おもしろく聞けるのではないかと思い、この話を読み聞かせることにした。

(3) 一斉視聴

『力持ちのポール』 9月16日(木)降園時

紙芝居の場面	幼児の言動	教師のかかわり	読みとり
赤ちゃんのポールが、ミルクを飲ませてもらう。	「これくらい?」と手で大きく身振りしたり、「このお部屋くらい?」「幼稚園より大きい?」「あ、分かった、宇宙くらいだ」「無限くらい?」と想像をめぐらす。	降園時、皆が集まったところで「今日はね、ものすごく大きな男の子のお話だよ。どれくらい大きいか、分かる?」と問い掛ける。 「じゃあ、これからお話するから、どんな男の子なのか、よく見ててね」と始める。	これから始まる物語の主人公に対する、興味が湧いてきた。
ポールの足に運ばれて子どもたちが学校へ通う。	A夫「うわあ、おおきい!」と思わず呟く。 他の幼児も驚いたような感心したような表情で笑いながら見つめている。		場面から、ポールの大きさがすぐにどの幼児にも感じ取られたようだ。
もらった斧で、皆のために一生懸命木を切り倒したり、綱を引っ張って曲がった川の流れをまっすぐにしたりする。	C子「いいなあ、あたしも乗りたい」 どの幼児も真剣に見入っている。	「そうら、もうひとつ」「カーン!」「よいしょよいしょ」の部分は特に力を入れて、重みや力強さが伝わるように読む。	物語の中に入り込んで楽しんでいる。 ポールのすごさをそれぞれに感じている。
町の人とポールが、お互いに感謝の気持ちを伝え合う。	N夫、J夫は握りこぶしで「よいしょ、よいしょ」と小声で教師に合わせて呟く	丁寧に、思いを込めて台詞を読む。	ポールの力強さや一生懸命さを体で感じている。 相手に感謝する心の気持ち良さが少しでも伝わるといいな。
機械と競争して負けたポールが、別の町を作り旅立つ。	それまで笑っていた表情がなくなり、深刻そうな目でポールを見つめる。 A子、E子「…なんかかわいそう…」	ポールの淋しさ、落胆を十分に伝えると共に、気持ちの切り替えをはっきりと読む。	物語の展開や雰囲気をよく理解し、ポールの気持ちに共感している幼児が多いようだ。
「今でもかみなりがなると……ポールを思い出します。」	N夫「先生、ぼくそれ聞いたことがあるよ」 A夫「おれも。あっちのほう」 K子「え…でもアメリカっていったよ」	「そう、もしかしたら、ポールかもね…」とその気持ちを認める。	主人公をととても身近に感じる事ができたんだな。

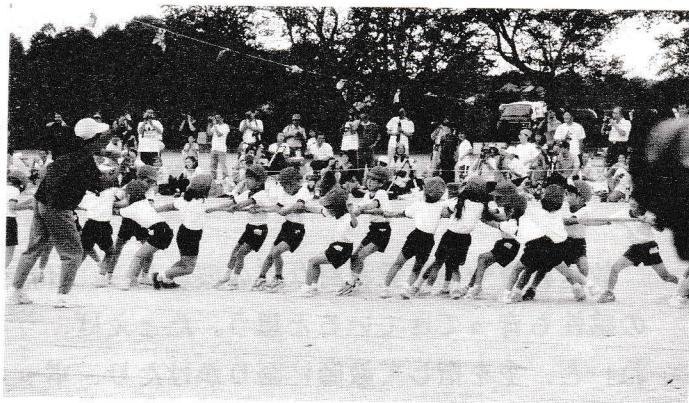
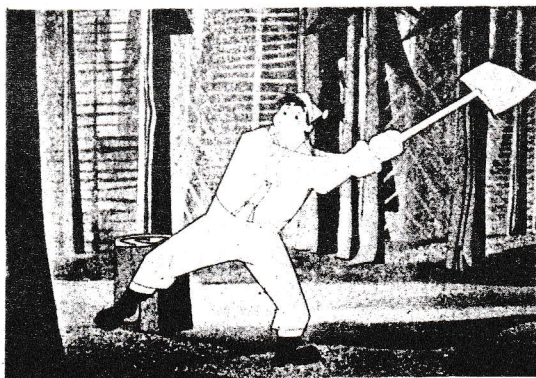


視聴後、余韻を持たせて扉をしめると、幼児たちの方から「なんか、ポールかわいいそう」「先生、ポールになりたい」「ポールと知り合いになりたい。幼稚園に早くこれるし。」「それにおもしろそうだよ」「すごいね、だって川なおすんだもん」「こうやって木を切ってた」「ちからもちなとこがすごい」「機械と勝負して負けたけど、他の町にいったよ」と、口々に感じたことを教えてくれた。

「皆もポールみたいになれるのかなあ」と教師が尋ねると、「えー！、どうやって!?!」「なれるよ、だって力持ちだもん」「今日、綱引きで勝ったじゃん」「分かった、これから毎日うでたてふせして、筋肉もりもりになればいいんだよ」と、ポールの力持ちな所がやはり印象的だったようで、「じゃあ、綱引きも今日みたいに皆でがんばればすごい力持ちになれるかもしれないね…」「うん!」と各自が意欲をもって降園した。

(4) 気付いたこと

- 主人公の体の大きさや、力の強さからくる物語のおもしろさと同時に、自分も話の中にいるような、反対にポールが本当にいるような、不思議な気分を十分に味わうことができたようだ。また、数人の幼児は何となくではあるが、ポールの心の痛みを感じることもできたようである。
- 「ポールみたいになりたい」という幼児の言葉に、ただ力持ちであるというだけでなく、教師の話のもっていき方は「人のためにやること」「あきらめないこと」も気が付くことができたのかもしれない。



みんなでお片付け!

幼児の姿と教師のかかわり

幼児は積木を使って遊ぶのが大好きである。しかし、一定の場所にたくさんの積木を四角に積み重ねて片付けるのは4歳児にはまだ難しい。入園当初、教師が中心となって、いくつかのコツを伝えながら一緒に片付けることで、自分たちでも片付けられるようにした。また、一緒にやりながら、「このまま散らかっていたら、誰かがころんでしまうね。」「このままだと、次に遊ぶとき大変だね。」と、なぜ片付けることが必要か伝えたり、「きれいに片付けると気持ちいい。」「片付けはみんなでやったほうが早い。」という気持ちをもてるように言葉や行動で伝えた。



6月に入って、自分たちで片付けることも少しずつできるようになってきた。Y男、D男、R男は積木で電車を作るのが大好きである。中心となって積木の片付けもするY男。ある日、Y男が中心になって進めていたとき、「小さいのは後。」ともってくる子に怒りながら注意している。Y男の見ていない所に勝手に置くと、「ここはだめ。」「まだだよ。」と大声で怒るので、積木をどこにもおけず、何人かは片付けをやめて遊び始めた。「Y君が置かないでってあんまり怒るから、どこに置くかわからなくなって困っているみたいだよ。」「だって、みんなが勝手に置くんだもん。」「怒ってダメダメって言わないで、Y君は上手な片付け方を知ってるんだから、みんなに、やさしく教えてあげたり、直してあげたりして一緒に片付けたら。」とY男の気持ちを聞きながら話をした。すると、ふてくされながらも「穴ぼこが空かないようにするの。」と教えていた。教師と一緒によく片付けをしていたので、Y男は積木の片付け方を知っているが、Y男には一人でやるよりもみんなでやったほうが早い、協力してやる方がうまくいくということを知ってほしかった。

6月下旬、Y男だけが中心だった積木の片付けも、R男、M男も一緒になって他の幼児が持ってきた積木を隙間を作らないように置いている。M男が「三角と三角は合体して四角にするんだよ。」と三角が見えるように合体した四角を置き、M男も片付けの仕方を覚えて教える姿が見られた。Y男がいろいろ指示するなかで、まわりの幼児もやり方を覚え、M男のように、別の幼児に伝えていた。教師もいつでも手伝うのではなく、見守ったり、ほめたり、考えさせたりと幼児の成長と共に援助やかかわり方を変えていかなければならない。

気付いた点

- ・なぜ片付けをするか伝えていかなければ、いつまでも言われて片付けることしかできないので、片付けの大切さを理解し、やろうとする気持ちをもたせることが自分からやろうとする子を育てると思う。
- ・片付けのなかでたくさんのことを学ぶことができる。積木は三角や四角があること、三角を二つ合わせると四角になることなどに気付き、図形を覚えたり、図形に関心をもったりすることができる。また、一人でもてない大きい積木は友達と一緒にもてばいいなど考えたりすることができ、友達と力をあわせることもできるようになる。それらのことを教師がすべて教えこむのではなく、遊びながら気付かせたりしていくことが大切である。
- ・一人で片付けることも大切であるが、みんなでやろうとすること、みんなでやれば片付けやすいということを伝え、気付かせることで、みんなで役割を分担することができるようになると思う。

事例2 2年保育4歳児5月中旬

どうして仲間に入れてあげないの? 『S子ちゃんはだめ!』

幼児の姿と教師のかかわり

幼児たちはいつものように砂場で膝まで埋め込んで感触を味わったり、バケツに砂を入れてご馳走を作ったり、穴を掘って水を流しこんだりなどの遊びをしていた。M子、L子、A子たちがテーブルにお皿やお碗を並べてご馳走作りをはじめた。この日もM子が中心になってジュースを作ったりごちそうを作ったりしてまわりの幼児たちはそれができるのを待っていた。そこへ、普段、一人で遊ぶことの多いS子がやってきて、M子たちの遊びに興味をもち、仲間に入りたそうにしていた。



S子は自分からあまり言葉を発しない子だったため、きっかけをつかめないでいるのだと思い、教師がM子たちに「ねえ、S子ちゃんが仲間に入りたんだって!入れてくれる?」と聞くと、M子はあまりいい顔はしないで、「ええ!だって座れないよ」と言ったので、S子と一緒に椅子を探して仲間に入れてもらうことにした。S子はさっそくご馳走を食べようとお皿に手をもっていくと、すぐ様M子が「ダメ!」というので、今度はペットボトルをもってコップにつごうとしたが、「まだダメ!今作ってるんだから」と強く言われてしまった。S子は待っているのがつまらなかったのか砂が付いた両足をテーブルの上にのせた。隣でそれを見ていたM子は「だからS子ちゃんはいやなんだ」とかなり言葉を荒立てて怒鳴った。まわりの子も二人の会話に言葉を失った様子だった。そこで教師が二人の間に入ってお互いの気持ちを伝えるようにしたところM子もS子も一応は納得したようだった。その後、他の幼児が仲間に入りたそうにしているとA子が椅子を持ってきてあげたり、Y子が場所を譲ったりしていた。またS子には「待ってなね、もうすぐできるから」となだめるT子の姿があった。教師が「よかったね。M子ちゃん、おいしいジュースができるかな?S子ちゃんがとっても楽しみにしているよ」と言葉をかけると、嬉しそうに「待って!オレンジジュースができるから」と答えていた。

気付いた点

- ・すべてにおいて行動がマイペースで、一人で遊ぶことが多く、生活に必要な言葉や態度がまだ育っていないS子と、自己主張が強く、自分が中心になって遊びを進めたがるM子の二人の性格の違いから起こったと思う。その二人の性格や行動の違いを教師がよく理解し、受けとめた上で、心情を汲み取り、その子やその場に合った言葉をかけてあげることがとても大切だと感じた。
- ・M子の主張が強く、まわりの幼児が気持ちを抑えて遊ぶことが多かったが、教師が二人の気持ちを受けとめ、相手にも思いがあることを代弁したことによって、M子はS子の気持ちに改めて気付いたり、S子も無意識にやっていた行動をいけないことだと気付いたりして、それぞれが自分の気持ちを振り返って考えることができた。
- ・教師のM子、S子に対するかかわり方を見て、まわりにいた幼児たちも仲間に入りたいと思っている幼児にやさしく声をかけてあげたり、場所を譲ったりしてあげるなど、他の幼児に対して気遣う心の変容が見られた。

事例3 2年保育4歳児6月中旬

言葉で伝えて!

幼児の姿と教師のかかわり

おままごとコーナーで、K男や女児3人くらいがご飯を用意したりして遊んでいる。女児が犬の人形を抱いて遊んでいるのを見て、K男はほしくなり、H子も持っている人形をつかんでとろうとするが、放さなかったため、K男はH子をたたいた。

K男は普段から気に入らないことやほしいものがあるときに、手や足が出てしまう。「ぶったー」「たたいた」などと他の幼児からでてくることがしばしばである。友達と一緒に遊ぶには、「かして」「まって」「ごめんね」と言葉で伝えていかなければ楽しく遊べない。こうしたトラブルを通して、言葉で伝えることの大切さをわかってほしいと思い、「お口で言わないとわからないよ。」「お話できるお口があるでしょう。」ということ伝えてきた。

H子が「先生、Kちゃんがぶった。」と言い、「Kちゃん、たたいたの?」「どうして?」と声をかけると、K男は無言で下をむいた。「Kちゃんはこのワンちゃんを使いたかったの?」と聞く。しばらくして「うん。」と答えた。「ねえ、使いたいときは、とったり、ぶったりしないで、どうしたらいいの?」とまわりの子にも一緒に話しかけると、T子が「貸してっていうんだよ。」「そうね。貸してって言うといいね。Kちゃんもお話できるよね。お友達に貸してって聞いてごらん。」と促した。

「かして。」とK男が言うと、今度はH子が何も答えない。「Hちゃん、Kちゃんが聞いているよ。どうする?」それでも黙ってうつむいたままである。「貸したくないのかな?」H子は頷く。「でも、この人形をKちゃんが遊びたいのもわかるかな?H子ちゃんと同じようにこのお人形で遊びたいんだね。じゃあ、すぐに貸してあげられなかったら『終わったら貸してあげるね。』って言ってあげたら?」とH子のまだ遊びたいという気持ちを受け止めながら、K男も同じ気持ちであることを伝えた。

教師は、H子たちがK男への悪いイメージから貸してあげるか不安もあったので「でもね、Kちゃん、もしお約束して、なかなか終わらなかったら、『まだ??』って聞いていいんだよ。」と、伝える。しばらくして、K男が笑いながら、H子に「貸して。」と聞くと、H子「いいよ。」と、人形を渡しながら大声で笑いあった。教師は「Kちゃん、お口で言えたねH子ちゃんもお約束したとおりに貸すことができたのね。」と二人をほめた。



気付いた点

- ・K男は、言葉で伝えると気持ちよく遊べることを感じ始めている。そのことをもっと実感することが必要であり、教師はK男の様子を見守り、伝えられたときには認めて、ほめたり、なかなか言葉がでないときには一緒に考えたりすることが大切だと感じた。
- ・言葉は知っていても、伝える勇気が出ないことも多い。幼児の思いを読み取り、どう思っていて、どうしたいのかわちんとわかってあげたり、幼児には見えていない相手の思いを伝えてあげたりすることが教師は必要である。教師の声かけで友達に話しかける勇気が出たり、相手の思いを知ることができるので、教師は幼児の行動を見守り、心をくみとることが必要である。
- ・遊びのなかのトラブルを通して、まわりの子の気持ちを知ろうとしたり、考えたりして、みんなで解決しようとする気持ちや相手を思いやったりする心が育ってくれるのではないかと思う。

事例4 2年保育4歳児10月中旬

友達と一緒に楽しいな『忍者の修行ごっこ』

幼児の姿と教師のかかわり

5,6人の 男児が砂場の近くの滑り台を利用して、そこを岩にして何か技を掛けながら降りてきたり、よじ登ったりして遊んでいた。その幼児たちの動きをみて、教師が思わず「かっこいいね、忍者みたい。」というと、Y夫が「忍者ってこうやって術をかけるんだよ」と指を組んで忍者の真似をする。するとそれに習ってM男やS男たちもすっかり忍者の気分になってやってみせた。その姿を見て女兒も興味を示した。忍者の話で盛り上がっているとY夫が「先生、忍者は修行をするんだよ」と言ったので「修業ってどんなこと？」と関心を示すと、Y夫は坂を転げ落ちたり、芝生の上をでんぐり返しをしたりしてみせた。他の幼児も「ぼくだって修業する」と遊びに加わり得意な側転をしたり、滑り台を掛け登ったり、植込に隠れたりしてみせた。また「忍者ってさ、音を立てないで走るんだよ」といって小走りに走ったり、ジャンプして砂場に飛び込んだり、太鼓橋、チェーンネット、ジャングルジムなどの固定遊具を利用して登ったり渡ったりなど、一人の幼児の修業という言葉からいろいろな忍者の動きがうまれた。



翌日、遊びがよりおもしろくなるというなど考え、みんなでビデオ“つくってあそぼ：忍者でござる”を視聴した。視聴後、ワクワクさんをまねて、新聞紙を使って手裏剣や刀を作ったり、さらに忍者らしくなれるように教師がカラーポリ袋の忍者服を作ってあげると、喜んでそれを身に付け、作った刀や手裏剣を持ち、すっかり忍者に変身して遊んでいた。他の幼児も「ぼくも作りたい」「わたしも作って」と興味をもち、たくさんの幼児が遊びに加わった。その後、園庭に出て教師と一緒に修業のコースをつくり、それぞれの幼児が思い思いにタイヤ飛びやけんけん飛びをしたり、築山を寝転がって降りたり側転をしたりしていろいろな修業ごっこの表現をしながら友達と一緒に体を思いきり動かして遊ぶことを楽しんでいた。

気付いた点

- ・教師の言葉かけひとつで幼児の心を動かし、遊びを生み出したり、遊びに興味が湧いたり、イメージが膨らんだりして友達と一緒に楽しく遊ぶことができた。それには普段から幼児との信頼関係を築き、かかわっていくなかで教師の態度や受けとめが重要であると感じた。
- ・小道具や洋服があるとそのものになりきって遊べるので、予想して材料を用意しておくことも遊びを発展させていく大事な環境のひとつであると思った。
- ・身体を動かす遊びやルールのある遊びに興味をもってきた頃に、教師が“忍者の修行ごっこ”の遊びを取り入れ、飛ぶ、走る、転がる、渡るなどの運動遊びも組み込まれ変化に富んだ環境を用意したことから、友達とのかかわりができ、一緒に遊ぶ楽しさを感じることができたと思う。
- ・教師は、幼児の興味や発達、運動機能等を十分考慮して環境を用意していくことがその遊びを盛り上げる要因になると思う。

ルールを守ろう

幼児の姿と教師のかかわり

幼児たちの間で、“転がしドッジボール”の遊びが始まっていた。円を描き、円の外からボールを投げ円の中にいる幼児がボールに当たったら円の外に出る、という簡単な遊びである。

この日も、クラスの半分くらいの幼児が転がしドッジボールに興味をもちはじめ、友達や教師と一緒に遊んでいた。その中には、自分の思いが通らないとすぐに友達をたたいたり、ぶつたりする幼児、Y男も加わっていた。また、転がしドッジボールのルールがよくわからないK男もいた。Y男がボールに当たり円の外に出て、Y男は自分の所にボールが来るのを待っている。その隣には、Y男と同じようにK男が立っていた。そこへ待ちに待ったボールが2人の元へ転がってきた。2人は「ボールがきた！」と思い、ボールにとびついた。Y男もK男もほとんど同時に、ボールに手を出した。Y男は「何するんだよ。僕が先にボール取ったんだよ！」とK男にいい、「違うよ！僕が先だったんだよ！」と大声を出してボールの取り合いが始まった。普段から2人はボールの取り合いでトラブルを起こし、その都度、教師が仲裁に入り、お互いの思いを聞いたり、伝えたりしてきた。しかし、いつまでも教師が仲裁してばかりでなく、そろそろ2人で、周りの幼児から刺激を受けながら解決できるようにしたいと思い、しばらく様子を見守ることにした。ボールはいつまでもY男とK男の手の中にあり、ゲームは始まらない。他の幼児もそれを見てどうしたらよいか分からない幼児もいれば、「早くしてよ。」と、ゲーム再開を促す幼児もいた。教師がここで幼児たちがスムーズに遊べるようにルールを決めたり、教え込んだりしてゲームを再開させることは易しいことだろう。しかし、幼児たちがどうしたら楽しく友達と一緒に遊べるのだろうか？と考えたり、悩んだり、またルールを守りながら遊ぶ大切さにも気付くために教師は、「Y男君、K男君みんなが待っているよ。いつまでもボールのとりっこをされていていいのかなあ？どうしたらいいの？」と声をかけた。すると、M男が「じゃんけんして決めれば？」と提案した。教師は「それはいいアイデアだね。」と、M男の提案を認めるようにしたところ、Y男とK男は2人でじゃんけんをはじめ、K男が勝ちゲームが再開された。じゃんけんに負けたY男は、ボールを投げられなかったことに悔しい表情をみせたので、教師はY男に「お友達にボールを譲って偉かったね。」と誉めた。Y男は「うん。」とうなずき、表情も和らぎ、最後まで転がしドッジボールをして遊んだ。

その後、ボールの取り合いが起こるたびに、幼児同士でじゃんけんを行い、勝った人が投げられるというルールが確立し、それを守りながら遊べるようになっていった。



気付いた点

- ・男児2人のボールの取り合いからゲームが中断した時、教師がすぐに仲裁せず見守ることで幼児たちはゲームを中断すると「つまらない。」ということを感じ、どうしたら楽しく遊べるのかと自分たちで知恵をだし、遊びが再開できるように考えることで、友達の意見も受け入れられるようになった。
- ・Y男やK男は、みんなから「早くしてよ！」と指摘されることや、みんなが待っているということで、「自分ばかり勝手なことをしていたのではいけない。」ということに気付く、いいきっかけだったのではないかと思う。
- ・M男のじゃんけんの提案を認めたことで、他の幼児たちもルールの大切さに気付き、ルールを守りながら遊ぶと楽しいということが分かってきたのだと思う。
- ・Y男がじゃんけんに負けた時に、K男にボールを譲る気持ちを誉めたことで、我慢することの大切さに気付くことができた。また、みんなと一緒にゲームをする楽しさがわかってきたので、最後まで転がしドッジボールをして遊んでいたのではないか。この時期は我慢する心や最後までやり通そうとする心の育つ時期であることから、保護者と連携をとり、協力を得ながら幼児の心を育てていくことも大切であると思う。

事例6 2年保育4歳児2月頃～5歳児6月頃まで

ルールを変えると楽しいね！

幼児の姿と教師のかかわり

4歳児の2月頃、幼児たちの中で“転がしドッジボール”が人気のある遊びの一つとなっており、友達と一緒にルールを守りながら遊んでいる姿がよく見られた。



ある日、うさぎ組の幼児数名が転がしドッジボールを楽しんでいた。後からりす組の幼児数名が自分のクラスのボールをもって「仲間に入れて。」とやってきた。うさぎ組の幼児たちが「いいよ。」というとりす組のY男が持っていたボールをいきなり投げ始めた。そのことからボールが1個から2個で行う転がしドッジボールが始まった。その際に教師は、幼児の動きや、幼児が転がしドッジボールのルールが分かっているかなどの状況を把握し、2個のボールを使った転がしドッジボールのルールを認めるようにしていった。幼児たちは「きゃー！」といいながら、ボールに当たらないように逃げ回ったり、円の外にいる幼児は、ボールを一生懸命に取ろうとしたりして、ボールが2個になったことで動きが活発になった。そこで教師は、友達とぶつかり合う危険性が予測されたので幼児の動きを見ながら円の大きさを変えた。また、ボールが急に2個になってしまい戸惑っている幼児には、「○○ちゃん、ほら、後ろからもボールがくるよ！」「○○ちゃん、今当たっちゃったね。」と声をかけ遊びが盛り上がるようにした。その後、幼児たちの中で、2個のボールを使った転がしドッジボールが白熱していき、楽しく遊んでいた。

4歳児の3月頃には、5歳児が行っている“ドッジボール”をする姿を見て、おもしろそう、やってみたいと思い、「仲間に入れて。」と年長児に話しかけている幼児の姿も見られるようになった。仲間に入れてもらった年少児は、好きなチームに入れてもらい、ボールは取らずに逃げ回ったり、ボールに当たった時には、線の外に出る事は分かっても、どこに出ればいいのか分からずに戸惑っている姿が見られた。しかし、年長児に「○○ちゃんはあっちに出るんだよ。」「○○ちゃんは、当たったから外に出るんだよ。」などと優しく教えてもらい、両学年で遊んでいる様子が見られた。4歳児は5歳児への憧れの気持ちをもって、自分たちも大きい組の遊びをやってみたいと思っているので、教師はこうした幼児の素朴な気持ちを大切にするようにした。また、年少児と年長児が関わっている様子を温かく見守るようにしながら、年長児に教えてもらったがよく分からずにいたり、ルールを無視したりしている幼児に対して、必要に応じてルールを分かりやすく話しをし、幼児たちと一緒にドッジボールをして遊びながら伝えていくようにした。年長児と一緒にドッジボールをすることで、だんだんとルールが分かるようになり、その後、年少児だけで2チームに別れてゲームを楽しむ様子も見られるようになってきた。

年長児になると、「一緒にドッジボールをして遊ぼうよ。」と友達同士で誘い合って一緒に楽しむ姿が見られた。チーム分けも2人組になってじゃんけんをし、「勝った人は、こっちチーム」「負けた人は、あっちチーム」と自分たちでゲームを進められるようになり、自分のチームが負けそうになった時は「○○ちゃん、がんばれ！」と応援したりして、友達と一緒に遊ぶ楽しさとルールを守る中で勝敗をつけるおもしろさもわかるようになってきた。

気付いた点

- ・ボールが1個から2個へと偶発的に始まった新しいルールだったが、教師が「危ないから駄目だよ。」と否定するのではなく、認めたことで幼児は、「ルールを変えるとおもしろいな。」ということに気付いたり、ボールがどこからとんでくるか分からないドキドキ感もあったりして、遊びが盛り上がり持続して楽しむことができたのだと思う。
- ・ボールが2個になったことで、円の中の幼児は、ボールから逃げるための敏捷性がついたり、円の外にいる幼児は、ボールに触れる機会も増え、ボールをとることが上手になったり、円を大きくしたことから投力もつくようになった。このように幼児の様子に応じて環境を変化させることが幼児の成長を促すのに大切であると思う。
- ・5歳児と一緒に遊び、転がしドッジボールからドッジボールへとゲームが変化したことで、より遊びがおもしろくなったり、ルールを守って遊ぶことの大切さがわかってきた。それは、遊びの様々な場面で葛藤を繰り返しながら、友達の意見を受け入れる心も育ってきたからだと思う。

事例7 2年保育5歳児6月下旬

友達と一緒に作ろう

幼児の姿と教師のかかわり

空き箱を使って作ることが大好きな幼児たちはこの頃、自動車を作って遊ぶ姿がよく見られた。自分の思いを出して車を作っていたが、動かない車に物足りなさを感じ、遊びが停滞してきているようなので「つくってあそび乗り物工場」のビデオを視聴することでそこからヒントを得てより楽しく遊ぶことができるのではないかと考え、みんなで視聴した。視聴後、各自

のイメージでワクワクさんのまねをしながら片ダンボールを丸めて動く自動車づくりを始めた。一人ではできない子には「やってあげるよ」と声を掛けたり友達同士で教え合ったりしながら作る姿が見られた。車ができあがり、友達と競争して楽しんでいるとK子が「先生、みんなで街を作りたい!」と言った。「Kちゃんいい考えね」とK子の発想を認め、他の幼児にも伝えた。この遊びをきっかけにクラスみんなで遊べるといいなと考え幼児と一緒に街づくりに必要な材料を用意し作り始めた。Y子は「信号の色が変わるようにしたい」というので幼児の思いを受けとめ教師も一緒に工夫しながら作った。友達の良さにも気づき刺激し合えるように「Yちゃんは信号が変わるようにしたんだって。すごいね。」と褒めたり「TちゃんとSちゃんは分担して作っているよ」と周りの幼児に広めた。街づくりが進む中で普段から友達とトラブルの多い女児3名が途中で抜けていった。日頃から自己中心的な行動が多いので他の幼児がどのような反応をするのか様子を見た。抜けたことに他の幼児たちも気づき、何人かずつ順番に3人の所に行っては「一緒に作ろうよ」「みんなでやらないとできないよ」と誘いかけていた。そこで、他の幼児のみんまで作りたいという思いやみんなで協力して作る大切さに気付くように話をした。子どもたちは意欲的に取り組み「ガタガタ道も作ろう」「T君の作ったおうちにはカーテンもあるよ。すごい」と友達の良さを認め、出来上がった街に作ったバトカーやショベルカーを走らせたりして遊び始めた。遊びがより楽しくなるように救急車などの効果音を流し「どこかで事故みたいです」と声をかけると「どこですか?」と事故現場を探したり、「救急車は赤でも走れるんだよ」といいながら走らせ自分たちでいろいろな場面を考えながら遊んでいた。



気付いた点

- ・ 幼児の気持ちを受け止めたり、見守ったり、必要に応じて援助したりすることで車づくりだけでなく街づくりにも興味を示し、クラスみんなで「街を作ろう」という目的に向かっての一体感が出てきたように感じた。上手く入れずに抜けてしまう幼児も見られたが、他の幼児が誘いかけクラスの仲間意識が育ってきたように思う。
- ・ 友達同士で協力したり刺激し合ったり、アイデアを出し合ったりしながら遊ぶためには教師の援助のタイミングが大切であると感じた。
- ・ 街づくりになったことでいろいろな友達とのかかわりが増え、みんなで作り上げた充実感、達成感が味わえていたようだった。

事例8 2年保育5歳児7月

いっぱいとれたよ！

幼児の姿と教師のかかわり

年長組に進級した幼児は3月に植えたじゃがいもが気に入り、朝、登園してくるとじゃがいもの芽の出たところに「こっちはまだ小さいなー」と言いながら水をあげ収穫を期待して世話をしていた。植物は水をあげたり雑草を抜いたり、肥料をあげたりしてまめに世話をしないと大きく育たないことに気付かせ



ると、雑草を見つけては「栄養を摂られちゃうんだよ」「大変だ！！」と言いながらみんなで抜くようになった。また、ありや虫を見つけるとりありさんのおはなしと歌を口ずさんだり、図鑑で虫を調べたりしていた。あまり畑に興味のない幼児たちにも植物の生長に興味をもってほしいと思い、よく世話をしている幼児たちに畑の様子をみんなに知らせる機会を設け畑に興味を設けた。そのうちに花が咲き始めると「あっ、花が咲いてるよ」「わあー。白いんだね」「こっちも咲いているよ」ととても嬉しそうだった。子どもたちがじゃがいものちょっとした変化にも目を輝かせている姿を受けとめ、共感するようにしていった。また、遊んだ後に「じゃがいも大きくなっているかな？」と伝えることで興味や関心が持続するようにした。この頃になると「中のおいもはどのくらいかな？」「きっと大きいよ」と期待も高まってきた。しばらくするとじゃがいもが土の表面に顔を出し始めた。「わあー。じゃがいもができてるよー！」「ほんとだっ」とみんな大喜び。「じゃあ、少しだけ掘ってみよう」と声をかけ子どもたちと一緒に掘ってみると大きいのがみつかった。「できてる！」「大きいね、早く掘ろうよ」と早く収穫したいという気持ちが高まった。

そして翌日、大きいじゃがいもを期待してみんなで掘り始めた。「こんなに大きいのが採れたよ」「僕だって大きいよ」と友達同士で比べっこをしたり、形を見比べたりしていた。「たくさんのじゃがいもが採れたね。みんなが一生懸命に世話をしてきたからだよ」「まだ、土の中にあるかもしれないね。よく探してみてごらん？」と話すとき、土で汚れることも気にせず土を掘り返し「あったよ」「ここにはないや」と畑を耕していた。「たくさんとれたね」「早く食べたいな」「先生、小さい組にもあげようよ」と年少組のことも思いやる気持ちが見られたことを嬉しく思い「年少さんもきっと喜ぶよ。みんなで一緒に食べようね」と収穫を喜ぶ心を大切に受けとめた。

気付いた点

- ・毎日続けて世話をしてきたことで、自分たちのじゃがいもという特別な思いがし、大きく育つようにたっぷり水をあげたり雑草を抜いたりして優しい気持ちで世話をし生長を見守る事ができたように思う。
- ・たくさんのじゃがいもに感動し、収穫の喜びを満喫すると自然に自分たちだけでなく分けてあげたいという気持ちになるのだと思う。
- ・教師自身が感性豊かであり、また優しい気持ちで植物に接していくことで幼児も感性や優しさが自然と芽生えてくるのではないかと思う。教師はよきモデルとなるように努めることが大切であると感じた。

目標の指標化			
5歳児	低学年	中学年	高学年
<p>自分の思ったことや考えたことを友だちに伝えたり、友だちの思いや考えを受け入れたりと関わったりする。(※1)</p> <p>絵本や物語を興味・関心をもち、楽しむ。</p> <p>遊びや生活を通して文字や数詞の意味や関心をもち。</p> <p>元氣よくあそび・返事をしたり、声に出して「ありがとう」「ごめん」「さようなら」を言う。</p> <p>友だちと積極的に関わったり、遊びやあそびを共有する。</p> <p>友だちや異年齢の人に興味を持ち、友だちの思いを受け入れ、失敗を許す。</p> <p>友だちと協力しあって、活動する。</p> <p>友だちとの生活や遊びの中で自分の役割に気づき、守ろうとする。</p> <p>おどろや驚きなどがあることに気づき、考えながら行動する。</p> <p>身近な動物や植物に興味を持ち、観察したりする。(※1に配慮)</p> <p>自然の中で遊んで楽しむ、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づく。(※1に配慮)</p>	<p>人の話を最後まで聞く。</p> <p>正しい姿勢、口形で最後まで話す。</p> <p>読本や物語を興味・関心をもち、楽しむ。</p> <p>助け合って学習する。</p> <p>工夫して学習する。</p> <p>ものごとのわけを考える。</p> <p>元氣よくあそび・返事をしたり、声に出して「ありがとう」「ごめん」「さようなら」を言う。</p> <p>友だちや仲間と協力しあって、活動する。</p> <p>友だちの思いを受け入れ、失敗を許す。</p> <p>働くことと協力しあって、活動する。</p> <p>自分のことは自分です。</p> <p>のびのびと行動する。</p> <p>うそをいわない。</p> <p>家族に親しむ。</p> <p>自然に親しむ。</p> <p>美しいものを大切にすること。</p> <p>動物や植物に興味・関心をもち、観察したりする。</p> <p>一日3回以上食事をする。</p> <p>安全な生活や遊び方を学び、守って行動する。</p> <p>自分の目標に向かって努力し、積極的に様々な活動をする。</p>	<p>人の話の要点をまとめておぼえながら聞く。</p> <p>内容を整理し、分かりやすく話す。</p> <p>要点をつかみ、読書の楽しさを広げる。</p> <p>協力して学習する。</p> <p>新しい考え方や方法を考え出す。</p> <p>常に研究態度をもつよう努力する。</p> <p>相手の態度を見て、はっきりおぼえつつ返事をしたり、声を出して「ありがとう」「ごめん」「さようなら」を言う。</p> <p>相手のことを思いやり、親切にする。</p> <p>相手の立場を理解する。</p> <p>働くことの大切さや喜びを味わい、責任活動をする。</p> <p>自分の責任を果たす。</p> <p>責任ある行動をする。</p> <p>正しいと思うことは、勇気をもって正しく行動する。</p> <p>郷土を愛する。</p> <p>自然にやさしい心で接する。</p> <p>清らかな心を大切にすること。</p> <p>自分で健康に留意すること。</p> <p>何でも食べておぼえながら行動する。</p> <p>安全に遊ぶ。</p> <p>適切な運動に親しむ。</p> <p>苦しい事も辛く感じずやりぬく。</p>	<p>自分の考えをしっかりと伝え、人の話を聞く。</p> <p>相手の事を考え、節度を立てて話す。</p> <p>読書の習慣を身につけ、心を豊かにする。</p> <p>個人学習と協同学習の両方を切り開く。</p> <p>積極的に新しい分野を切り開く。</p> <p>真理を探求し、広い視野で判断する。</p> <p>自分から進んで、はっきりおぼえつつ返事をしたり、声を出して「ありがとう」「ごめん」「さようなら」を言う。</p> <p>相手のことを思いやり、親切にする。</p> <p>広い心で人の立場を思いやる。</p> <p>創意工夫し、協力しながら責任活動を実践する。</p> <p>倫理と義務の関係を考える。</p> <p>自由と責任をわきまをえる。</p> <p>勇気をもって正しく行動する。</p> <p>日本を愛する。</p> <p>自然を愛する。</p> <p>清らかな心で愛護心をもつ。</p> <p>自己の健康増進に努める。</p> <p>栄養を考え何でも食べておぼえながら行動する。</p> <p>生命尊重に心を掛ける。</p> <p>積極的に身体を鍛錬する。</p> <p>障害や失敗にもくじけずやりぬく。</p>
学力の向上			
規律ある態度の育成			
体力の向上			

知的な好奇心
言語
コミュニケーション

徳
思いやり・言葉遣い
不とう不屈
健康安全
早寝早起き
朝ごはん

学びの接続

育ちの接続

幼・保・小連携による心豊かに生きる子どもの育成

幼稚園教育要領・保育所保育指針と小学校学習指導要領のつながり「伝え合う力」

5 歳児 (幼稚園)	6 歳児 (保育所)	第1学年及び第2学年
<p>言葉 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。</p> <p>(1) 自分の気持ちや言葉を言葉で表現する楽しさを味わう。</p> <p>(2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</p> <p>(3) 日常生活に必要な言葉が分かるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。</p>	<p>自分の経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、相手と伝え合う楽しさを味わう。</p> <p>(2) 人と話し合うことや、身近な文字に関心を深め、読んだりすることの楽しさを味わう。</p> <p>(3) 絵本や童話、視聴覚教材などを見たり、聞いたりして様々なイメージを広げるとともに、想像することの楽しさを味わう。</p>	<p>(1) 相手に応じ、経験したことなどについて、事柄の順序を考えながら話すことや大事なことを落とさないように聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度を育てる。</p> <p>(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。</p> <p>(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気がながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p>
<p>ね ら い</p>	<p>学 年 の 目 標</p>	<p>ア 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話す。</p> <p>イ 大事な事を落とさないようにしながら、興味をもつて聞くこと。</p> <p>ウ 身近な事柄について、話題に沿って、話し合うこと。</p>
<p>内</p>	<p>読 書 の こ と</p>	<p>ア 相手や目的を考えながら、書くこと。</p> <p>イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。</p> <p>ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えること。</p> <p>エ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。</p> <p>オ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いないように注意すること。</p>
<p>容</p>	<p>読 む こ と</p>	<p>ア 易しい読み物に興味をもち、読むこと。</p> <p>イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。</p> <p>ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。</p> <p>エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。</p>

幼稚園の5歳児の指導内容から関連する小学校教科

月	ねらい	指導内容	教科
4月	○年長になった喜びと自覚をもち、新しい生活に必要な決まりを守る。 ○友達と一緒に好きな遊びを十分楽しむ。 ○身近な春の自然に触れて遊ぶ。	・年少児にしてあげられることを考え、親しみをもって接する。	道徳
		・新しい生活の場を整えたり、決まりを話し合ったりする。	道徳
		・春の草花遊びや虫探しに興味をもち、友達と一緒に楽しむ。	生活・理科
		・自分の思っていることを伝えたり、友達の考えを聞いたりする。	国語
5月	○戸外で思い切り体を動かして遊びながら、友達とのかわりを深める。 ○身近な動植物に興味や関心をもち触れて遊ぶ。	・戸外で遊びながら、砂・土・水の感触を十分に味わい、試したり、工夫したりして楽しむ。	生活・理科・体育
		・種まきや苗植えなどの栽培を通して植物の生長に興味をもち。	生活・理科
		・自分の考えを相手にわかるように話したり、友達の話を聞き理解しようとしたりする。	国語
		・戸外で友達と一緒に、のびのびと体を動かす心地良さを味わう。	体育
		・園庭の草花や新緑の変化に気付いたり、気付いたことを話したりする。	生活・理科
		・当番の仕事や身の回りのことを友達と楽しんで行う。	道徳・生活
		・自分の体のしくみや成長に関心をもち。	理科
6月	○気の合う友達と思いを伝え合いながら遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○梅雨期の自然事象や動植物に興味や関心をもち、見たり触れたりして遊ぶ。	・歯の大切さを知り、歯の衛生に関心をもち。	学活
		・雨の日の散歩を楽しみながら、雨の降る様子、雲の動き、水滴など気付いたことを伝え合う。	生活・理科
		・小動物に触れたり、よく見たりして発見したことを教師や友達と伝え合う。	生活・理科
		・友達と一緒に曲に合わせて歌ったり踊ったり楽器をならしたりし、いろいろな表現を楽しむ。	音楽
		・感じたことや考えたことをイメージして、いろいろな材料を使って作ったり遊んだりする。	図工
		・自分のイメージや考えを伝えながら、友達と遊びを進める楽しさや共感する楽しさを味わう。	全教科領域
		・約束を守って安全にプール遊びを楽しむ。	体育

7 月	<p>○プールでのいろいろな水遊びに挑戦したり、試したりして楽しむ。</p> <p>○七夕など夏の行事に関心をもち、異年齢児と一緒に集いを楽しむ。</p> <p>○飼育物や栽培物の生長に興味や関心をもち、進んで世話をしたり親しみをもってかかわったりする。</p>	・自分なりの目標をもち、プールでの遊びを楽しむ。	体 育
		・星や空、宇宙などに興味や関心をもちイメージをふくらませる	理 科
		・色や形などに関心をもち、工夫して作ったり飾ったりして七夕の行事に触れる。	図工・生活
		・友達と一緒に歌ったり、楽器を使ったりして音色やリズムを楽しむ。	音 楽
		・生活や遊びを通して、進んで年少児とかかわり楽しく過ごす。	道 徳
		・収穫した野菜を友達と一緒に切ったり、食べたりする喜びを味わう。	家 庭
		・夏野菜の感触やにおい、数や形などに関心をもち。	生活・理科
		・栽培物の生長や変化に興味や関心をもち、世話をしたり収穫したりする。	生活・理科
9 月	<p>○友達と一緒に戸外でいろいろな運動遊びに取り組み、体を動かす心地良さを味わう。</p> <p>○友達と共通の目的をもって考えを出し合いながら遊びを進めていく楽しさを味わう。</p> <p>○身近な草花や虫などに親しみをもってかかわったり触れたりして大切にす。</p>	・夏休みに経験したことを友達の前でわかるように話したり、友達の話も聞いたりする。	国 語
		・共通の目的に向かって友達と力を合わせたり、競い合ったり挑戦したりする。	体 育
		・戸外で体を十分に動かし、いろいろな運動遊びを繰り返し楽しむ。	体 育
		・空や雲の様子の変化や涼しい風などから、季節の移り変わりを感じる。	生活・理科
		・種や実、虫などに興味が深まり、自分で絵本や図鑑を見たり調べたりする。	生活・理科
		・いろいろな国の名前や国旗に親しむ。	道徳・社会
		・友達と一緒にリズムに合わせて踊ったり、体を動かしたりすることを楽しむ。	音楽・体育
		・お年寄りや地域の人と一緒に楽しく過ごし、親しみをもつ。	道徳・社会・生活
10 月	<p>○体を十分に動かし、遊ぶ楽しさを味わいながら、自分なりの目的や課題をもって取り組もうとする。</p> <p>○身近な秋の自然に興味や関心をもち、触れたり扱ったりする中で、気付いたり感じたりした事をいろいろな方法で表現して遊ぶ。</p>	・自分なりの目あてをもって、いろいろな遊びに取り組む。	体 育
		・友達と相談し、ルールを考えたり力を合わせたりして遊びを進める。	体 育
		・運動会を十分に楽しみ、やり遂げた充実感を味わう。	体 育
		・秋の木の実や種を集めたり、遊びに使ったりする。	生活・理科

11月	○秋の自然に触れたり、感じたり、取り入れたりして自然物を使った遊びを楽しむ。 ○友達とのつながりを深め協力して遊ぶ中で、共通の目的に向かって遊びを進める。	・木の葉や木の実を種類別に分類したり、遊んだり使ったりして色や形などに興味や関心をもつ。	生活・理科
		・秋の自然に触れ季節の変化やその美しさに気づき、感じたことや考えたことを表現する。	生活・理科
		・遊びの中で文字や数、量に興味・関心をもつ。	国語・算数
		・友達と考えを出し合い、共通の目的に向かって協力して実現する喜びを味わう。	全教科領域
		・自分達の身の回りで働いている人々がいることを知り、感謝の気持ちをもつ。	生活・社会
		・絵本やお話の世界に親しみ、イメージを広げて表現することを楽しむ。	国語
12月	○自分達で考えたことを遊びの中で実現したり、表現したりすることを楽しむ。 ○年末の街の様子や行事などに関心をもつ。	・遊びを通して言葉のやりとりのおもしろさや文字に興味をもつ。	国語
		・友達と遊びに必要なものを考えたり、工夫したりして遊びを進めることを楽しむ。	生活・図工
		・年末の街の様子や行事に関心をもち、遊びに取り入れる。	生活・社会
		・風の冷たさや木々の変化などの冬の自然に興味や関心をもつ。	生活・理科
1月	○お正月の遊びに興味をもち友達や異年齢児と一緒にかわって遊ぶことを楽しむ。 ○自分なりの目的をもち、十分に力を発揮しながら挑戦したり競ったりして遊びを進めていく。 ○寒さに負けず、進んで戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。	・冬休みに経験したことを友達の前でわかるように話したり、友達の話に関心をもち聞いたりする。	国語
		・身近な人と新年のあいさつを交わす。	道徳・学活
		・お正月遊びに興味をもち、友達と誘い合って一緒に楽しむ。	生活
		・お正月の遊びやゲームなどの遊び方を友達同士で考えて進めたり、年少児に教えたりして一緒に遊ぶことを楽しむ。	生活
		・数量、図形、文字などへの関心を深めたり遊びに使ったりする。	算数・国語
		・地域の人と交流し、伝承遊びを楽しむ。	生活・社会
		・お話の世界に親しみ、気の合う友達同士でイメージを広げて遊ぶ。	国語
		・寒さに負けず、友達と一緒に体を動かして遊ぶ。	体育
・自分の目的に向かって繰り返し取り組み、できた満足感を味わう。	全教科領域		

2 月	○身近な冬の自然事象に興味や関心をもち、見たり試したりして遊ぶ。 ○伝承行事に関心をもち、進んで参加し楽しむ。 ○友達と協力して遊びを進めイメージを共有したり、表現したりすることを楽しむ。	・霜柱や氷などの冬の自然事象に興味をもったり不思議さを感じたりする。	生活・理科
		・節分の行事に期待をもって参加し、自分の年齢や成長を意識する。	生活・社会
		・友達と工夫したり協力したりしながら劇遊びを進めていき、表現したり作り上げたりする喜びを味わう。	国語
		・小学校生活を体験し入学への期待をもつ。	生活科
3 月	○友達存在を認めながら遊びや生活を積極的に進めていき充実感を味わう。 ○修了の喜びと入学への期待をもち、自信をもって行動する。	・時刻や時間などを意識し、見通しをもって園生活や遊びを自分で進めていく。	全教科領域
		・一緒に過ごした友達や身近な人々への感謝の気持ちをもつ。	道徳
		・作品や持ち物の整理をしたり、生活の場をきれいにしたりして修了を楽しみに待つ。	学活
		・日差しや風の暖かさ、草木の芽吹きなど季節の変化に気づき春の訪れを感じながら生活する。	生活・理科
		・園生活を振り返り、幼稚園の思い出を話し合う。	生活
		・年少児に親しみや思いやりの気持ちをもって接する。	道徳

保育所の5歳児の指導(遊び)内容から関連する小学校教科

月	ねらい	指導内容	教科
4月	・年長児になった喜びを味わい 自覚をもって遊びや生活する	・楽しく食事をしながら、苦手なものにも挑戦する	学活
		・保育者や友達と好きな遊びを楽しむ	生活・体育
		・友達と当番活動について話し合い、進んで取り組む うとする	道徳・学活
		・春の自然に興味を持ち、遊びに取り入れて楽しむ	生活・理科
		・考えたり、経験したことを話す	国語
		・リズム 歌を楽しむ	音楽
5月	・遠足に楽しく参加する ・戸外で春の自然や友達とふれ 合いながらのびのびと過ごす	・健康な生活の仕方が分かり、身の回りのここをすす んで行く	学活
		・戸外でのびのび体を動かして遊ぶ	体育
		・保育者や友達とかかわりを持ち、一緒に遊ぶことを 楽しむ	生活・体育
		・異年齢児とのかかわりを持ち、親しみを広げる	道徳
		・動植物の世話をしたり、観察したりする	生活・理科
		・造形活動を楽しむ	図工
6月	・夏まつりに向け、楽しみながら 製作・練習をする ・身近な自然・動植物に興味・ 関心を持ち関わる	・すすんで衣服の調節・手洗いうがい・水分補給をする	学活
		・畑作りを通して、野菜に興味持ち、楽しく食事する	生活・理科・家庭
		・絵本や紙芝居・童話に親しみ、想像を膨らませる	国語
		・自分の思いや考えを友達に伝えたり、友達の考え を聞いたりする	国語
		・様々な素材を使って製作を楽しむ	図工
		・友達と一緒に歌ったり、踊ったり、太鼓を叩いたり して楽しむ	音楽

7月	・砂・泥・水遊びを十分楽しむ ・夏祭りを楽しみ、楽しい思い出になるようにする	・汗をかいたら着替えたり水分補給、帽子をかぶる等自分でしようとする	学活
		・プールの約束を守り、水遊びを楽しむ	体育
		・行事を通して、地域の人との交流を楽しみ、親しみを持つ	道徳
		・夏野菜の収穫や世話を楽しくする	生活・理科
		・太鼓の練習を楽しむ	音楽
8月	・友達と夏の遊びを楽しむなかで達成感や満足感をあじわう	・汗をかいたら着替えたり水分補給、帽子をかぶる等自分でしようとする	学活
		・プール・水遊びなど、夏の遊びを楽しむ	体育
		・自分の思いを主張し、ぶつかり合いながら友達の思いに気付く	道徳
		・かぶと虫やせみ・チョウ等身近な昆虫に触れ、遊び・世話をする	生活・理科
		・自分の思いや意見を言葉で表す	国語
		・リズム 歌を楽しむ	音楽
9月	・運動遊びに意欲的に取り組み、運動会への期待をもつ	・運動用具(鉄棒・跳び箱・平均台)を安全に使い、全身を使って遊ぶ	体育
		・ルールを守りながら集団遊びを楽しむ	全教科領域
		・年長児としての自覚を持ち、友達と一緒に当番活動をする	道徳・学活
		・経験したことを友達の前で話したり、聞いたりする	国語
		・夏から秋への自然の変化に気づく	生活・理科
		・歌ったり、踊ったりしながら、リズムを楽しむ	音楽

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に楽しく参加し、やり遂げた達成感をあじわう ・小学生との交流を通して、憧れや期待を膨らませる 	・戸外で十分体を動かす気持ち良さを味わう	体育
		・食材に関心を持ち、楽しい雰囲気の中で食事をする	家庭
		・運動会を通じて、みんなで応援し合いながら頑張る	体育
		・小学生や年下児の交流で、いたわりや憧れの気持ちを持つ	道徳
		・十五夜の由来を知り、お月見団子作りを楽しむ	生活・家庭
		・時刻や時間に関心を持つ	算数
		・経験した事を自由に描いて楽しむ	図工
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・風邪をひきやすい季節を、元気に乗り越えていく ・心地よい日差しの中で、戸外遊びや散歩を楽しむ 	・風邪の予防の大切さを知り、手洗い・うがいを丁寧にする	保健・体育
		・食材や料理に興味を持ち、食事する	家庭
		・秋の自然にふれ、季節の変化を感じる	生活・理科
		・秋の自然物(ドングリ・マツボックリ)を使い、造形活動を楽しむ	生活・図工
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園コンサート・お楽しみ会への期待を高め参加する ・生活リズムを整え、健康に過ごす 	・寒さに負けず、体を使って遊ぶ	体育
		・手洗い・うがい・衣服の調節をする	学活
		・体調の変化を保育士に伝える	学活
		・自分の気持ちを相手に伝え、みんなで楽しく遊ぶ方法を考える	国語・学活
		・水・風の冷たさや、木々の変化に関心を持つ	生活科・理科
		・保育士や友達と会話を楽しみ、思ったこと感じたことを話す	国語・学活
		・自分なりのイメージ体験から、自由に絵を描く	図工
・劇遊びを楽しむ	国語・学活		

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・寒さに負けず、戸外で体を動かして遊ぶ ・お正月遊びや季節の製作を楽しむ 	・体の温まる遊びをする	体育
		・お正月の遊びを楽しむ	生活
		・伝統的な食に興味を持つ	家庭
		・冬の自然(氷・霜柱)に触れて遊ぶ	生活・理科
		・新年の挨拶をしたり、お正月に経験したことを話したり聞いたりする	国語
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の頑張り、気持ちを大切に自信を持たせる ・卒園を意識し、就学への期待感を持たせる 	・健康な生活リズムを身につける	体育
		・身近に地域の人たちや小学生との交流を深める	生活・道徳
		・冬の自然に触れて遊ぶ	生活・理科
		・話を落ち着いて聞くようにする	国語
		・小さい子のクラスにお手伝いに行き、異年齢交流を深める	道徳
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・友達・保育士と残り少ない園生活を楽しむ 	・戸外でたくさん体を動かして集団遊びを楽しむ	体育
		・社会生活に必要なマナーを見に付ける	道徳
		・お別れ会・卒園式を通して、感謝の気持ちを表す	道徳
		・4月からの新しい生活に期待を持つ	生活
		・保育所での思い出や、学校への期待などを話す	国語

1年生入門期における指導内容

知	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の話や友だちの発表を最後まで聞く。(国) ・正しい姿勢、口形で、大きな声ではっきり最後まで話す。(国) ・正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方で、ていねいに書く。(国) ・ひらがなを正しく読んだり、書いたりする。(国) ・10までの数について、じゅんにならべたり、大小をくらべたりする。(算) ・くり上がりのないたし算、くり下がりのないひき算をする。(算) ・学校を探検し、施設や先生方に親しむ。(生活) ・アサガオを育て、観察する。(生活) ・校庭や地域の自然に親しむ。(生活) 	学 力 の 向 上
徳	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつ・返事をする。(道徳) ・「～です(か)」「～ます(か)」を言う。(道徳) ・「ありがとう(ございます)」「ごめんなさい」を素直に言う。(道徳) ・「入れて。(あそぼう。)」 「いいよ。」と誘い合って一緒に遊ぶ。(道徳・学活) ・悪口・うそを言わずに、友だちと仲良くする。(道徳) ・くつ箱、ロッカー、机の中など、身の回りの整理整頓をする。(道徳・学活) ・学習用具を忘れずに準備する。(道徳・学活) ・日直・そうじ給食当番・係など自分の仕事に進んで取り組む。(道徳・学活) 	規 律 あ る 態 度 の 育 成
体	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、歯みがきをする。(学活) ・早寝、早起きをする。(学活) ・好き嫌いせずに、良く噛んで食べる。(学活) ・安全(交通・不審者・施設遊具等)に気をつけて行動する。(学活) ・元気よく外遊びや朝マラソンに取り組む。(業前・業間活動) ・自分の目標に向かって、いろいろな運動に親しむ。(体) 	体 力 の 向 上
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の前面黒板の前に広いスペースをとって、集まって座って話を聞けるようにする。 ・くつ、ロッカー、机などに名前シールを貼り、自分の使う場所が分かるようにする。 ・名前の順、背の順で並べるようにする。 ・「きりつ」「きをつけ」「れい」「前へならえ」などの号令に合わせて、整列したり集団行動したりできる。 ・はさみ、鉛筆、箸を正しく使うようにする。 ・座り込まずに立ったまま、左右反対にせずに、靴をはいたり脱いだりする。 ・固結び、ちょうちょう結びができる。 ・雑巾のねじり絞りができる。 ・姿勢良く、立ったり座ったり食事をしたりできる。 ・おわんを手を持って食べる。 ・地区名、班長の顔と名前を覚える。 	

平成19年度 連携交流カレンダー

●職員・保護者

◎児童・幼児

月/日	内 容	幼	保	小	保護者
4/19(木)20(金)	授業・給食体験(幼・保職員→小1へ)	●	●	●	
4/25(水)	授業体験(幼・保職員→小1へ)	●	●	●	
5/28(月)	1年生保護者向けアンケート実施				●
5/31(木)	(指導課訪問)	●	●	●	
6/18(月)	(心肺蘇生法合同講習会)	●	●	●	
6/19(火)	音楽交流会(小4・幼・保)	◎	◎	◎	
6/7(木),12(火),21(木), 26(火),28(木), 11/5(月),12(月),19(月)	交換授業体験(幼・保職員→小1へ)	●	●	●	
6月～7月	交換保育体験(小学校職員→幼・保へ)	●	●	●	
7/6(金)	七夕まつり(小1→幼稚園へ)	◎		◎	
7/17(火)	音楽交流会(小3・幼・保)	◎	◎	◎	
7/17(火)	パズルで遊ぼう(小5・幼・保)	◎	◎	◎	
7/27(金)	(パソコン合同研修会13:00～)	●	●	●	
8/20(月)	プール体験(幼→小学校へ)	◎			
8/21(火)	(教育相談研合同修会8:30～) 教育講演会(13:10～・平方公民館)	●	●	●	
8/22(水)	プール体験(幼→小学校へ) 保育参観(プール指導)9:30～	◎		●	
9/22(土)	運動会(幼保→小学校へ)	◎	◎	◎	
9/27(木)	虫さがし(小1・幼・保)	◎	◎	◎	
10/6(土)	幼稚園運動会(小1卒園生→幼稚園へ)	◎		◎	
10/11(木)	研究授業(3年)学活3-1	●	●	●	
10/13(土)	保育所運動会(小1卒所生→保育所へ)		◎	◎	
10/18(木)	研究授業(2年)道徳2-1	●	●	●	
10/25(木)	研究授業(6年)国語6-3	●	●	●	
10/27(土)	幼稚園バザー	◎	◎	◎	●
10/30(火)	道徳授業体験(小1・幼・保)	◎	◎	◎	
10/30(火)	図書委員会読み聞かせ→幼・保へ	◎	◎	◎	
10/31(水) (雨天予備日11/5(月))	チャレンジ集会・学校公開日	◎	◎	◎	●
10月～11月	交換保育体験(小学校職員→幼・保へ)	●	●	●	
11/5(月),12(月), 19(月)	交換授業体験(幼・保職員→小1へ)	●	●	●	
11/8(木)	研究授業(4年)国語4-1	●	●	●	
11/9(金)	動物園ごっこ(小6・保→幼稚園へ)	◎	◎	◎	
11/10(土)	平方小キッズフェスタ	◎	◎	◎	●
11/13(火)	校庭遊び(小1・幼・保)	◎	◎	◎	

月/日	内 容	幼	保	小	保護者
11/16(金)	落ち葉拾い(小1・幼・保→丸山公園へ)	◎	◎	◎	
11/19(月)	3年生読み聞かせ(小3・幼・保)	◎	◎	◎	
11/22(木)	4年生読み聞かせ(小4・幼・保)	◎	◎	◎	
11/22(木)	研究授業(5年)国語5-2	●	●	●	
11/30(金)	校内持久走大会応援	◎	◎	◎	●
12/10(月),11 (火),14(金),17(月)	図書委員会読み聞かせ→幼・保へ	◎	◎	◎	
12/6(木)	おもちつき	●		●	
12/14(金)	道徳授業体験(小1・幼・保)	◎	◎	◎	
1/16(水)	保育参観(幼稚園指導課訪問)	●	●	●	
1/18(金)	昔遊び(小2・幼稚園)	◎		◎	
1/21(月)	校庭遊び(小1・幼・保)	◎	◎	◎	
1/21(月)	給食体験(幼・保→小5へ)	◎	◎	◎	
2/7(木)	研究発表 研究授業(1年)道徳1-1, 1-2, 1-3 幼児授業体験(幼・保→小1へ) 図書委員会読み聞かせ(幼・保へ)	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	
2/12(火)	歌って手足を動かして(ドレミ体操 と手遊び)(小3・幼・保)	◎	◎	◎	
2/12(火)	ことば遊び歌(群読)(小4・幼・保)	◎	◎	◎	
2/28(木)	年長組を送る会(保→幼)	◎	◎		

平成19年度 交流活動計画

活動名	音楽交流会（総合2時間）	
活動日時	平成19年6月19日（火）	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学4年生
ねらい	・4年生の歌を聴いたり、一緒にふれあって遊んだりして親しみの気持ちをもつ。	・自分から進んで幼児に声をかけたり、手をつないだりして、思いやりの心をもって優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	七夕まつり（音楽2時間・図工2時間・生活3時間）	
活動日時	平成19年7月6日（金）	
活動場所	平方幼稚園ホール	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児	小学1年生
ねらい	・小学校一年生の児童と共に七夕の行事に喜んで参加し、一緒に過ごしたり楽しんだりして親しみをもつ。	・幼児に優しく話しかけたり手をつないだり飾り付けをしたりしながら、あたたかい心で接することができる。 ・幼児の世話をしたり、発表をほめてもらったりしながら、上級生としての自信をもつことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	音楽交流会（音楽1時間・国語1時間・総合2時間・学級活動2時間）	
活動日時	平成19年7月17日（火）	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児 保育所 5歳児	小学3年生
ねらい	・3年生の歌を聴いたり、じゃんけんゲームを一緒にしたりしてふれあうことを楽しむ。	・幼児に歌を発表したり音楽リズム遊びを一緒にしたりしながら、自ら進んで関わりをもつことができる。 ・幼児に優しく接し、上級生としての自信をもつことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	パズルで遊ぼう（図工8時間・学級活動1時間）	
活動日時	平成19年7月17日（火）	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学5年生
ねらい	・5年生の作ったパズルで話したり教えてもらったりしてふれあいを楽しむ。	・幼児にパズルの遊び方をわかりやすく教えることができる。 ・幼児に優しく話しかけたり遊んだりしながら、思いやりのある気持ちで接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	虫探し (生活2時間)	
活動日時	平成19年9月27日 (木)	
活動場所	平方小学校校庭及び周辺	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学1年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことや感じたことを一年生に伝えながら一緒に虫探しを楽しむ。 ・友だちや一年生と一緒に虫を探したり捕まえたりする楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に自分から話しかけたり一緒に行動したりしながら、優しい心で接することができる。 ・幼児と仲良く虫を探したり観察したりすることができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	読み聞かせ (国語1時間・総合2時間・学級活動2時間)	
活動日時	平成19年11月19日 (月)	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学3年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生とのかかわりの中で、自分の思ったことや感謝の気持ちを相手に伝えるように言葉で伝える。 ・小学生が読んでくれる絵本をじっくり聞き、お話の世界を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が好みそうな本を選ぶことができる。 ・幼児におもいやりのある気持ちをもって、優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	読み聞かせ (国語1時間・総合1時間)	
活動日時	平成19年11月22日 (木)	
活動場所	平方小学校4学年各教室	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学4年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生とのかかわりの中で、自分の思ったことや感謝の気持ちを相手に伝えるように言葉で伝える。 ・小学生が読んでくれる絵本をじっくり聞き、お話の世界を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にわかりやすく本を読むことができる。 ・幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	動物園ごっこ (総合2時間)	
活動日時	平成19年11月9日 (金)	
活動場所	平方幼稚園園庭	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児 保育所 5歳児	小学6年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の幼児や小学生を招待し、自分たちで作ったもので遊んだり、やりとりを楽しんだりして満足感を味わう。 ・自分の思いや必要なことを相手にわかるように伝えたり相手の話を聞いたりして遊びをすすめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ていねいな言葉づかいで、幼児からの問題に答えたり、幼児に質問したりできる。 ・相手の気持ちを考えて「招待ありがとう」の手紙を書くことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

	落ち葉拾い（生活5時間）	
活動日時	平成19年11月16日（金）	
活動場所	丸山公園	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児 保育所 5歳児	小学1年生
ねらい	<p>5歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然に触れ、木々の変化や美しさを感じ、集めたり作って遊んだりして楽しむ。 ・自分の思いを伝えながら、小学生と一緒に遊ぶことを十分に楽しみ、かかわりを深める。 <p>4歳児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生と一緒に色付いた木の葉を見たり、集めたり、首飾りを作ったりすることを楽しみ、秋の自然を十分に味わう。 ・気付いたことや発見したこと、感じたこと等、自分なりの言葉で相手に話そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に優しく話しかけながら落ち葉の冠の作り方を教えてあげる等、思いやりのある態度で接することができる。 ・幼児と仲良く落ち葉や実などを観察しながら、秋らしさに気づくことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	昔遊び（国語1時間・図工1時間・生活科10時間）	
活動日時	平成20年1月18日（金）	
活動場所	平方小学校体育館及び平方幼稚園ホール	
対象	幼稚園 4歳児・5歳児	小学2年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなお正月遊びに興味を持ち、進んで2年生とかかわりながら、繰り返しやってみたり、一緒に楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔遊びの楽しさや技を名人から教わり、幼児と一緒に楽しむ。 ・教わった技を1年生に優しく教えてあげる。
備考	・事前打ち合わせ3回	

活動名	給食体験（学級活動3時間）	
活動日時	平成19年1月21日（月）	
活動場所	平方小学校5学年各教室・クラブ室・ランチルーム・家庭科室	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学5年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生に教わったり、一緒に食べたりし、給食の雰囲気を楽しみ、小学校への期待をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に給食の仕方を分かりやすく教えることができる。 ・幼児への思いやりの気持ちをもって、優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	授業体験（道徳1時間）	
活動日時	平成20年2月7日（木）	
活動場所	平方小学校1学年各教室	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	小学1年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教師、友達、1年生の話をじっくり聞いたり、自分の感じたことや考えたことを伝えようとする気持ちをもつ。 ・親しみをもつ1年生と一緒に授業に参加することで授業の雰囲気になれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と一緒によく話を聞きながら話し合い、誰にでも優しくしようとする気持ちをもつことができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	図書委員会読み聞かせ（業間活動）	
活動日時	平成20年2月7日（木）	
活動場所	平方小学校1学年各教室	
対象	幼稚園・保育所 5歳児	図書委員会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・お話をよく聞き、じっくりお話の世界を楽しむ。 ・小学生が読んでくれる絵本を楽しみ、感謝の気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容が幼児に伝わるように、上手に音読しながら読み聞かせをすることができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	歌って手足を動かして（音楽1時間・総合2時間）	
活動日時	平成20年2月12日（火）2校時	
活動場所	平方小学校体育館	
対象	幼稚園 4歳児・保育所 5歳児	小学3年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と一緒にリズム遊びをし、歌を歌ったりリズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・小学生と楽しく過ごす中で親しみをもって交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と一緒に歌ったり、手足を動かして音楽リズム体操をしたりして積極的に関わることができる。 ・上級生としての自信をもって、幼児に優しい心で接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

活動名	ことば遊び歌（国語 時間）	
活動日時	平成20年2月12日（火）3校時	
活動場所	平方小学校4学年各教室	
対象	幼稚園 4歳児・保育所 5歳児	小学4年生
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のリズムややりとりのおもしろさに気づき、遊びを楽しむ。 ・4年生の話を聞いたり自分の思いを伝えたりして関わって遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に言葉や歌をわかりやすく教え、一緒に楽しむことができる。 ・幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
備考	・事前打ち合わせ1回	

第1学年 交流活動案

日時 平成19年7月6日(金)

場所 幼稚園ホール

指導者 平方小学校 神田、川島、野村
内田

平方幼稚園 大室、佐藤、池田、
加藤、久川

教科時数内訳【音楽2時間・図工2時間・
生活3時間】

1 交流活動名 「七夕まつり」

2 活動のねらい

- 小学生・幼児に優しく話しかけたり手をつないだり飾り付けをしたりしながら、あたたかい心で接することができる。
- ・幼児の世話をしたり、発表をほめてもらったりしながら、上級生としての自信を持つことができる。
- 幼児 4歳児・小学校一年生の児童と共に七夕の行事に喜んで参加し、一緒に過ごしたり楽しんだりして親しみをもつ。
- 5歳児・みんなで作ったり飾ったりした笹飾りの中で雰囲気をも十分に味わい、一年生と一緒に七夕の行事を楽しむ。

3 幼児の実態

4歳児

- 七夕に興味をもち、お話を聞いたり七夕の飾りをつくったりしている。
- 小学一年生の児童に短冊へのお願い事を書いてもらったり、一緒に飾りをつけたこと、「(小学生に)また会いたいな」という気持ちが高まってきている。

5歳児

- 小学生と一緒に遊ぶ中で一緒に話をしたり手遊びをしたりして少しずつそれぞれが関わりをもとうとする姿や「話したい」「遊びたい」という思いが出てきた。
- 前日にペアになり短冊を書いてもらったことがとてもうれしかったようで、親しみをもち、次の日また一緒に七夕まつり会で会えることをとても楽しみにしている。
- 合奏を一年生に聞いてもらうことを楽しみにしている。

4 幼稚園との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、発表を見たりすることで、上級生に親しみ、あこがれを持つことができるであろう。また、小学生は、短冊を書いてあげたり、幼児に喜んでもらったりすることで、幼い人に対する優しい心を育み、自信を持つことができると思う。

5 事前の指導

- 出し物の練習 あいさつの言葉・・・各クラス代表1名
歌3曲
終わりの言葉・・・1名
- 七夕かざり・短冊制作
- 幼児のために短冊を書いてあげて、一緒に飾り付け。(前日)・・・各自自己紹介や優しい言葉かけ
- 招待状をいただく。(前日)・・・各自お礼の言葉

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:50	1 幼児とペアになり、幼稚園ホールへ入場し席へ着く。	○お互いに挨拶をして、手をつなぐようにする。 ◇自分から進んで幼児に優しい声かけをすることができる。
10:00	2 始まりの言葉・・・園児代表	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
	3 園長（校長）先生の言葉	○話を最後までしっかり聞くようにする。
	4 先生自己紹介（小学校・幼稚園）	○先生方に親しみを持つきっかけとする。
	5 1年生の歌 「子どもの世界」「きらきらぼし（ペープサートを用意）」「校歌」	○恥ずかしがらずに一生懸命歌うようにする。
	6 全員の歌 「たなばたさま」	○友達の声聞きながら歌うようにする。
	7 年少組の歌 「おほしさま」	○歌を良く聴いて、拍手するようにする。
	8 年長組の歌 「たなばたまつり」	◇心をこめて拍手したり、幼児をほめたりできる。
	9 終わりの言葉・・・小学生代表	○感想を交えながら、みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
10:35	10 幼児と握手をしてさようならの挨拶をする。	◇優しい声かけをしながら、握手してお別れの挨拶をすることができる。
	11 幼児を教室へ送ってから、幼稚園ホールの椅子を片付ける。	

7 活動を終えて

- 前日に短冊を書いてあげたり、一緒に飾り付けをしたりすることで、親しみが増し、交流が深まった。
- 前日のペアが当日に生かされ、期待を持つことができた。
- 席が隣同士になってよかった。一緒に過ごせて楽しかった。
- ペアや3人組で活動したので、子どもたちは必然的に伝え合いに努力していた。
- お互い仲良くしたいという願いを持てた。
- 1年生の出し物に幼稚園児が感心し、あこがれをいただいていた。幼児も1年生も、お互いに発表を見せ合うことで満足し自信を深めていた。
- 園児のゆかた姿がとてもかわいらしかった。
- 前日に短冊を書いたり、飾り付けをしたりするときの子どもたちの活動場所や活動方法の確認をしたほうがよかった。当日集会終了後の子どもたちの動きについても確認したほうがよかった。
- 数名は教師の願い事を書く担当だったが、前日から全員がペアや3人組で活動すればよかった。
- 30分程度と時間が短かった。1年生が願い事を上手に発表していたが、幼児の発表も入れて、みんなの前で話す、聞く活動があってもよかった。
- 集会の中で、感想交流をしてもよかった。
- 時間的場所的な余裕があれば、手遊び歌など取り入れるとさらに交流が深まるだろう。

第1学年交流活動案

日時 平成19年9月27日(木)
 場所 平方スポーツ広場
 指導者 平方小学校 神田、川島、野村
 平方幼稚園 大室、加藤、久川
 西上尾第2保育所 板垣、新井、氏家
 教科時数内訳【生活科2時間】

1 交流活動名 「虫探し」

2 活動のねらい

- 小学生
 - ・幼児に自分から話しかけたり一緒に行動したりしながら、優しい心で接することができる。
 - ・幼児と仲良く虫を探したり観察したりすることができる。

- 幼児 5歳児
 - ・思ったことや感じたことを一年生に伝えながら一緒に虫探しを楽しむ。
 - ・友だちや一年生と一緒に虫を探したり捕まえたりする楽しさを味わう。

3 幼児の実態

- 5歳児
 - 園庭でコオロギやバッタを探し、捕まえて喜んだり、図鑑で調べたりする姿が見られる。
 - 一年生(小学生)と一緒に遊んだことがとても楽しかった経験となり、また会えることや遊べることにとても期待をもっている。


4 幼稚園・保育所との連携



春夏の頃と比べ変化してきた秋の野原の自然とふれあいながら、小学生においては幼児に優しく接する態度や思いやりの心を養い、幼児においては小学生に対して親しみや憧れの気持ちを持つことができると考える。

5 事前の指導

- ペアやグループの設定
- 虫探しコースの下見、平方スポーツ広場の予約(スポーツ振興センターTEL048-781-8112)
- 自己紹介・やさしい話しかけ方や接し方についての話し合い
- 虫かご・薄手の長袖・長ズボンの用意(各自)、虫除けスプレー・医薬品の用意(各クラス)
- 保育所の児童の控え室(ランチルーム)、トイレサンダルの準備
- 水筒持参(保育園児)

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	児童の反応	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:35	1 幼児とペアになり、第2校庭に集合する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・○○です。よろしくね。 ・仲良くしようね。 ・虫が捕れるといいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お互いに挨拶をして、手をつなぐようにする。 ◇自分から進んで幼児に優しい声かけをすることができる。

9:40	2 平方スポーツ広場まで、手をつないで一緒に歩く。		○交通安全に気をつけるようにする。
9:55	3 虫探しをする。	 <ul style="list-style-type: none"> ・こおろぎがいるよ。 ・虫をとってあげようか？ ・ありがとう。 ・バッタもさがそうよ。 ・おにいさん、おねえさんは、虫探しが上手だな。 	○虫を探す範囲、気をつける場所、集合の合図、離れ離れにならず仲良く虫探しをすること等について事前指導してから行動させる。 ○各場所に分散し、虫探しの様子を見守り 子どもたちを支援する。 ◇幼児と仲良く虫を探したり観察したりできる。
10:20	4 学校まで、手をつないで一緒に帰る。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったね。 ・虫をとってくれてありがとう。 ・喜んでくれてよかったな。 ・虫をとってあげたかったな。 	○捕まえた虫に注意がいきがちなので、交通安全に気をつけるようにする。
10:35	5 今日の活動について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・とれなかったけど、楽しかったな。 ・また一緒に遊びたいね。 	○仲良く活動できたことの楽しさについて感想を聞き、次回の交流への期待を持たせるようにする。

7 活動を終えて

- 活動場所が適度な広さで見通しがよく、安全に活動しやすい場所で適切だった。
- 小学生は、幼児に優しく接しようとしていた。また、幼児をかわいといいと感じて慈しみ、思いやりの心を育むことができた。
- 幼児は、小学生との交流を楽しみ、感じたことを積極的に教師や友達に伝えようとしていた。
- 幼児は自分のために一生懸命探してくれたことがとてもうれしかったようで、「見つからなかったけど、ずっと探してくれた。」と一年生のやさしい気持ちを感じている様子が見られた。
- 「お兄さんが虫をとってくれてすごうれしかった。」と一人の幼児が話すと、「わたしも」「ぼくも」と嬉しそうに話す幼児がたくさんいた。
- 「虫を入れるときに箱をあけて手伝ってくれた。」など、一年生がしてくれたこと一つ一つがとても心に残っている幼児もいた。
- 子どもたちが顔見知りになり、名前を覚えて親近感を深めることができた。
- お互いに今後の交流を楽しみに期待することができた。
- 教師同士が協力関係を深めることができた。
- 時間に余裕があれば、ペアやグループで学校の校庭で遊ぶ活動が持てると、さらに子どもたちの親しみが増すだろう。

第1学年交流活動案

日時 平成19年11月16日(金)

場所 丸山公園

指導者 平方小学校 神田、川島、野村

平方幼稚園 大室、加藤、久川、佐藤、池田

西上尾第2保育所 板垣、新井、氏家

教科時数内訳【生活科5時間】

1 交流活動名 「落ち葉ひろい」

2 活動のねらい

- 小学生
 - ・幼児に優しく話しかけながら落ち葉の首飾りの作り方を教えてあげる等、思いやりのある態度で接することができる。
 - ・幼児と仲良く落ち葉や実などを観察しながら、秋らしさに気づくことができる。
 - ・見守ってくださる地域の方々に感謝の心をもって接することができる。
- 幼児
 - 5歳児・秋の自然に触れ、木々の変化や美しさを感じ、集めたり作って遊んだりして楽しむ。
 - ・自分の思いを伝えながら、小学生と一緒に遊ぶことを十分に楽しみ、かかわりを深める。
 - 4歳児・小学生と一緒に色付いた木の葉を見たり、集めたり、首飾りを作ったりすることを楽しみ、秋の自然を十分に味わう。
 - ・気付いたことや発見したこと、感じたこと等、自分なりの言葉で相手に話そうとする。

3 幼児の実態

- 5歳児
 - 園庭のサクラやケヤキの葉が赤や黄色に色づき変化していることに気づき、美しさを感じたりいろいろな葉の形や色の違いに興味をもったりしている。
 - 「一年生とお弁当食べられたらいいな。」と楽しみにする様子があったり、授業やペアリングと一緒に過ごす機会があり、一年生とのかかわりの中で自分を出し、安心して楽しんで遊ぶ姿が見られたりしている。
- 4歳児
 - 園庭にあるケヤキやサクラの葉の色が変化したことに気付き、拾ったり落ち葉を集めてお風呂にしたりシャワーにしたり、葉っぱの音を聞いたりすることを楽しんでいる。
 - 小学生と七夕まつりに参加したり、触れ合って遊んだり、運動会を小学校校庭で行ったりする中で小学生への親しみをもっており、落ち葉拾いに一緒に行くことに期待を膨らませている。

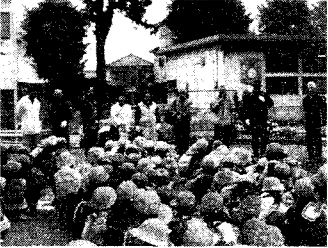




4 幼稚園・保育所との連携

深まってきた秋の公園の自然とふれあいながら、小学生においては幼児に優しく接する態度や思いやりの心を養い、幼児においては小学生に対して親しみや憧れの気持ちを持つことができると考える。また、地域の方々にご協力いただくことにより、人との温かい交流を深め、感謝の心を持ち、豊かな心を育むことができる。と考える。

5 事前の指導

- ペアやグループの設定
- 丸山公園管理事務所への連絡(TEL048-781-0163)
- やさしい話しかけ方や接し方についての話し合い
- 首飾り材料の用意(毛糸、セロテープ)、首飾りの作り方の学習

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	児童の反応	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:00	1 幼児とペアになり、園庭に集合する。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○です。よろしくね。 ・仲良くしようね。 ・地域のおじさん、おばさん、ありがとうございます。 	<p>○お互いに挨拶をして、手をつなぐようにする。</p> <p>◇自分から進んで幼児に優しい声かけをすることができる。</p>
9:10	2 丸山公園まで、手をつないで一緒に歩く。	<ul style="list-style-type: none"> ・手をつなぐと、あたたかいな。かわいいいな。 	<p>○交通安全に気をつけるようにする。</p>
9:55	3 丸山公園に到着後、トイレ休憩。		<p>○初めに到着する1組が北側のトイレまで移動し、2組、3組は南側のトイレを利用する。</p>
10:10	4 保育所の幼児も合流し、グループごとに落ち葉や実などを拾い、首飾りを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱの色がきれいだな。 ・毛糸は固結びするんだよ。 ・セロテープでとめていくんだよ。 ・首飾りがすてきだね。 ・ほかの遊びもしたいな。  	<p>○落ち葉を拾う範囲、気をつける場所、集合の合図、離れ離れにならず仲良く落ち葉拾いをする事等について事前指導してから行動させる。</p> <p>○各場所に分散し、落ち葉拾いの様子を見守り、子どもたちを支援する。</p> <p>◇幼児と仲良く落ち葉拾いをしたり首飾りの作り方を優しく教えたりできる。</p>
11:30	5 お弁当を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで一緒に食べるとおいしいね。 	<p>○グループごとに一緒に食べるようにする。</p> <p>○食べ終わったグループから順番にトイレをすませておくようにする。</p>

12:30	6 学校まで、手をつないで一緒に帰る。	<ul style="list-style-type: none"> ・さようなら、また遊ぼうね。 ・楽しかったね。 ・かわいかったね。 ・おにいさん、おねえさん、やさしくしてくれてありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所の幼児とお別れの挨拶をしてから出発する。 ○仲良く活動できたことの楽しさについてふりかえり、次回の交流への期待を持たせるようにする。 ○緊張がほぐれているので、気を抜かず、交通安全に気をつけるようにする。
1:15	7 学校へ到着	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のおじさん、おばさん、ありがとうございました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見守ってくださった地域の方々にお礼の挨拶をする。

※雨天延期 11月20日(火)

この場合、昼食はとらず11:30～園児と学校へ出発、

12:15 学校へ到着

7 活動を終えて

- トイレへ一緒にいったり首飾りの作り方を教えたり一年生のリードする姿や責任感がすばらしかった。
- 学校の行き帰りに一年生がなぞなぞを出したり話しかけたり、進んでかかわり楽しませようとする姿勢がみられた。
- 幼い子を気遣う心が育まれていた。
- 地域の方々が同行して見守ってくださったので、安全に過ごすことができた。また、地域の方々への感謝の心も育むことができた。
- 交流することにより人と人との温かいかわり合いの点では豊かな心を育みねらいを達成していたが、「秋の自然を十分に楽しむ」という生活科のねらいや保育のねらいは薄れがちだった。首飾りを作ることは時間を要するので、秋探しをする活動を中心に交流したほうがよい。

第2学年 交流活動案

日時 平成20年1月18日(金) 2・3校時

場所 体育館及び平方幼稚園ホール

指導者 平方小学校 堀、井上、島田

平方幼稚園 大室、佐藤、池田、加藤、
久川

教科時数内訳【国語1時間・図工1時間・生活
科10時間】

1 交流活動名 「昔遊び」

2 活動のねらい

- 小学生・昔遊びの楽しさや技を名人から教わり、幼児と一緒に楽しむ。
 - ・教わった技を1年生に優しく教えてあげる。
- 幼児・いろいろなお正月遊びに興味をもち、進んで2年生とかかわりながら繰り返しやってみたり、一緒に楽しんだりする。

3 幼児の実態

4歳児

- 糸引きごまに色を塗り、繰り返し糸引きごまを回すことを楽しんでいる。また、友達に「どちらが長く回せるか競争しよう。」と誘ったり、一緒に回したりして遊ぶことを楽しんでいる。お手玉や剣玉等いろいろな遊びにも興味をもっているが、なかなかうまくいかない。そして、昔遊び名人にコツを教えてもらうことや会えることを楽しみにしている。

5歳児

- 年少組のときにも名人の方や2年生と交流し、こまやお手玉、おはじき、剣玉など、いろいろなお正月遊びを知り興味をもって楽しんだ。昨年の経験から今年はもっと上手になりたいと挑戦する姿が見られる。
- 興味を持ったことに繰り返し挑戦したり、友達と一緒に試したり、工夫したりしながら楽しんだりするようになってきている。

4 幼稚園との連携

幼稚園児との関わりを深くするためには、事前にペアを組み、お互いにコミュニケーションをとることによって安心感や期待感を持たせることが大切だと考え、一人対一人、一人対二人など組み方の工夫をした。また、事前の打ち合わせを通して役割分担を行い、活動がスムーズにいくように無理のない計画を立てた。

5 事前の指導

- 昔遊びの練習…お手玉、こま、剣玉など。
- 幼稚園児とのペア作り(自己紹介のしかた、ゲーム)
- 終わりの会でお礼を言う子への指導(男女1名ずつ)
- 名人さんへのお礼の手紙の書き方指導
- 掲示物の書き方指導(会場図)
- 幼児への接し方と名人さん(地域の人)への接し方
- 幼稚園児への手紙の書き方指導(交流の感想)

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:30	1 体育館に集合し、幼児とペアになって座る。	○お互いに挨拶をして、手をつなぐようにする。 ◇ 自分から進んで幼児に優しい声かけをすることができる。 ○拍手で名人さんを迎える。
9:45	(はじめの会) 2 校長あいさつ 3 昔遊び名人さんの紹介 4 児童・園児の紹介 5 諸注意	○話を最後までしっかり聞くようにする。 ○名人さんに親しみを持つきっかけとする。
10:00	6 (昔遊び開始) ・体育館…こま・ベーゴマ・紙芝居・剣玉・ゴム跳び ・ホール…おはじき・めんこ・お手玉・折り紙 *体育館とホールを行き来しながら昔遊びを教わる。	◇ 園児と仲良く遊びを教わっている。 ◇ 教えてもらったら、「ありがとうございます。」とはっきり言うことができる。 ◇ 進んでいろいろな遊びにチャレンジし、楽しんでいる。
11:20	体育館に移動する。 園児とペアになって座る。	
11:25	(終わりの会) 7 お礼の言葉 2年生…男女1名ずつ 幼稚園…年少・年長1名ずつ 8 プレゼント渡し 9 区長代表さん挨拶	○教えて下さった方へ、心をこめて、丁寧な言葉づかいで、はっきりとお礼の言葉を伝える。 ○「ありがとうございました。」と言葉を添えて児童と園児がペアになって渡す。
11:40	解散	

7 活動を終えて

- 事前に幼稚園児とペア作りをして顔合わせをしておいた。簡単なゲームを楽しみ、互いに触れあう時間を確保しておいたので、当日はスムーズに行動できた。また、昔遊びを早くやりたいという意識の高揚にもつながった。
- 普段、小学校では面倒を見てもらっている2年生だが、当日は、年長者としての自覚がさまざまな場面で見られた。また、園児も大変喜んでくれて、2年生を頼る声も聞かれた。
- 更に交流を深めるために、ペアを組んだ園児に手紙を書き、届けた。
- 名人さんから丁寧にわかりやすくコツを教えてもらい、子どもたちは大満足だった。
- 安全面の点から、場所は幼稚園ホールと小学校の体育館に限定した。会場の行き来もスムーズに行うことができ、よかった。
- 昨年と比べ、名人さんの人数が確定するのが遅く、事前の準備(お礼の手紙)に手間取った。
- 当日になって、名人さんの人数変更(追加)や遊ぶ種目の追加など、予想外の事態に戸惑い、活動の流れも開始、終了ともに遅れが出てしまった。
- 前日が開校記念日だったため、直前の準備に支障が出た。日程は休みの翌日を避けた方がよい。
- 事前の打ち合わせの段階で、幼稚園だけでなく、名人さんとも種目の確認などが行えるとよい。

第3学年 交流活動

日時 平成19年7月17日〔火〕

場所 体育館

指導者 平方小学校 後藤、宮本、内田

平方幼稚園 大室、佐藤、池田

加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【音楽2時間・総合2時間】

1 交流活動名 「音楽交流」

2 活動のねらい

○小学生・幼児に歌を発表したり音楽リズム遊びを一緒にしたりしながら、自ら進んで関わりをもつことができる。

・幼児に優しく接し、上級生としての自信をもつことができる。

○幼児 4歳児・3年生の歌を聴いたり、じゃんけんゲームを一緒にしたりしてふれ合うことを楽しむ。

5歳児・3年生とゲームやリズム遊びをふれ合いながら楽しみ、親しみをもち関わって遊ぶ。

3 幼児の実態

4歳児

○友達に親しみをもち、自分の思いを出しながら好きな友達と一緒に遊んでいる。

○教師や友達と一緒に歌を歌ったり、リズム遊びをしたりして遊ぶことを楽しんでいる。

5歳児

○6月に4年生と音楽交流をしているので、歌を聴くことや一緒に遊ぶことをとても楽しみにしている。

○歌を歌うことがとても好きで、友達と一緒に口ずさんだり、リズムにあわせて踊ったり楽器にふれたりしている。

4 幼稚園・保育園との連携

幼児は、音楽発表を見たり、音楽リズム遊びをしたりすることで、上級生に親しみをもち、小学校への安心感が高まるであろう。また、小学生は、歌やリズム遊びでリードし、思いやりを持つとともに自分の成長に自信を持ち、幼児への関心を持つことができると考えられる。

5 事前の指導

○出し物の練習 始めの言葉・・・2名

司会の言葉・・・4名

歌1曲・音楽ゲーム2曲

終わりの言葉・感想・・・2名

○感想用紙

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント		
9 : 25	1 体育館へ入場し席へ着く。	○身近に感じるよう向かい合うようにする。 ○拍手で迎えるようにする。 ○拍手で迎えるようにする。		
	2 保育所入場し席へ着く。			
	3 幼稚園入場し席へ着く。			
9 : 35	4 先生の言葉（小学校）	○話を最後までしっかり聞くようにする。 ○明るく元気に話すようにする。 ○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。 ○自信をもって、一生懸命に歌うようにする。 ○歌を聴いて、拍手をするようにする。 ◇心をこめて、拍手をしたり、ほめたり思いやりを持って聞くことができる。		
	5 司会のあいさつ・・・小学生代表			
	6 始めの言葉・・・小学生代表			
	7 3年生の歌「きょうりゅうとチャチャチャ」			
	8 保育所の歌「夏のうた」			
	9 年少組の歌「おほしさま」			
	10 年長組の歌「ロケットばびゅ〜ん」			
	9 : 50		11 みんなで歌って遊ぼう「じゃんけん列車」「大きなくりの木の下で」	◇安心して取り組めるよう、自分から進んで幼児とスキンシップをとることができる。 ◇恥ずかしがらずに幼児を見ながら踊ることができる。 ○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
			12 感想発表・・・幼保子ども代表	
	10 : 05		13 終わりの言葉・・・小学生代表	○次の約束をし、お別れの挨拶をする。

7 事後の反省

- 幼児も3年生も、お互いに発表を見せ合うことで満足し自信を深めていた。
- 「じゃんけん列車」は、幼児も知っている遊びなので、慣れてくるとともに積極的に楽しむことができた。
- 「大きなくりの木の下で」は、じゃんけん遊びからスムーズに円形がつくられていた。お互いに顔を見せ合うことでも交流が深まり、その動作がそれぞれにとってもかわいらしかった。
- 感想交流では、こどもの言葉で発表でき、場が和みとてもよかった。
- 「じゃんけん列車」では、意識のずれがあったのか、交流に積極的になれない3年生がいた。
- 時間的な余裕があれば、「大きなくりの木の下で」の後、グループで自己紹介など取り入れるとさらに交流が深まるだろう。
- 伝え合いが自然に出来るよう、3～4人位の少人数で活動するとよかった。

第3学年 交流活動案

日時 平成19年11月19日〔月〕2校時

場所 体育館

指導者 平方小学校 後藤、宮本

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第二保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【国語1時間・総合2時間・特活2時間】

1 交流活動名 「読み聞かせ交流会」

2 活動のねらい

○小学生・幼児が好みそうな本を選ぶことができる。

・幼児におもいやりのある気持ちをもって、優しく接することができる。

○幼児 5歳児・小学生とのかかわりの中で、自分の思ったことや感謝の気持ちを相手に伝えるように言葉で伝える。

・小学生が読んでくれる絵本をじっくり聞き、お話の世界を楽しむ。

3 幼児の実態

5歳児

○降園時に教師が読む絵本や紙芝居をととても楽しみにしており、長い物語や読み聞かせなども集中して聞くことができるようになってきている。

○週一回の絵本の貸し出しでは、ぐりとぐら、バーバーパパなど好きなシリーズを楽しみに借りていく姿が見られる。

4 幼稚園・保育園との連携

幼児は、小学生が読んでくれる絵本を聞いたり、手作りプレゼントをもらったりすることで、上級生に親しみをもち、小学校への安心感が高まるであろう。また、小学生は、幼児が分かりやすい本を選んであげたり、幼児を楽しませてあげたりすることで、おもいやりのある気持ちをもち、優しく接することができると思う。

5 事前の指導

①幼児への接し方

②選んだ本の読み方の練習

③準備（楽しい読み聞かせ交流会の工夫）

- ・幼児が好みそうな本
- ・本のクイズ
- ・手作りプレゼント
- ・出てくる人の紹介
- ・ペープサート
- ・感想を聞く
- ・かんばん作り

④始めの言葉・・・2名

終わりの言葉・・・2名

*感想用紙を用意する。

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9 : 20	1 体育館へ入場、準備し席へ着く。	○本の題名を壁面に掲示し、コーナーの準備をする。
	2 保育所入場し席へ着く。	○身近に感じるよう向かい合うようにする。
	3 幼稚園入場し席へ着く。	
9 : 35	4 先生の言葉（小学校）	○話を最後までしっかり聞くようにする。
	5 始めの言葉（小学生代表）	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
	6 先生から（小学校）	
	7 グループに分かれての読み聞かせ	○一人一人が役割を持ち、責任を持って行えるようにする。 ◇幼児の様子を見て、声の大きさや読む速さに気を付けてあげることができる。
	8 終わりの合図・集合	○聞き手がいない時は、幼児を迎えに行きあげるようにする。
10 : 30	9 感想発表（幼稚園・保育所の幼児）	◇幼児が分かりそうなクイズにしたり、正解したらほめたりできる。
	10 終わりの言葉（小学生代表）	○みんなに聞こえる声ではっきり気持ちを伝えるようにする。
	11 幼児を送ってから、体育館の片づけをする。	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。 ◇次の約束をして、優しい声かけをしながら、お別れの挨拶をすることができる。

7 活動を終えて

- 9月から意識的に読書指導を高めるための活動を行ってきた。また、子ども会議を開き、読み聞かせ交流会でどうしたら幼児に楽しんでもらえるかを話し合い、その内容を子ども主体で決定してきた。そのため、準備や当日の活動においては、一人一人が役割を持ち、責任を持って、交流会に臨むことができた。
- 準備段階で生じた問題にも、各々のグループで話し合い、解決していかなければならなかったもので、お互いに意見を出し合うという機会がもてた。
- 一生懸命に聞いてくれる幼児を前にして、読み聞かせ活動を行うことで、自分を表現することに喜びを感じ、張り切る様子が多くのグループに見られたことも一つの成果のように思う。
- 幼児が集中して聞いてくれたこと、「読んでくれて、ありがとう。」の言葉がとてうれしかったようだ。
- 準備をするための時間が予定した時間よりかかってしまった。
- 話し方や読み方の練習をたくさんさせ、意欲を持たせながら聞き手に伝わるよう指導をしたい。

第3学年 交流活動案

日時 平成20年2月12日〔火〕3校時

場所 平方小学校体育館

指導者 平方小学校 内田、後藤、宮本、

平方幼稚園 大室、佐藤、池田

西上尾第二保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【音楽1時間・総合2時間】

1 交流活動名 「歌って手足を動かして」

2 活動のねらい

○小学生・幼児と一緒にリズム遊びをし、その中で歌ったり、手足を動かしたりして積極的に関わることができる。

・上級生としての自覚をもって、幼児に優しい心で接することができる。

○幼児・小学生と一緒にリズム遊びをし、歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ楽しさを味わう。

・小学生と楽しく過ごす中で親しみをもって交流を深める。

3 幼児の実態

○友達と歌を歌うことや手遊びをすることを楽しんでいる。また、リズムに合わせて体を動かして全身で表現したり、踊ったり音楽に親しんでいる。

○1学期に音楽交流をしており、「大きなくりの木の下で」を覚えてもらったり、じゃんけん列車を一緒にしたりして楽しく過ごした経験から、また小学生と交流がもてることを楽しみにしている。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、手足を動かしてリズム遊びをすることで、上級生に親しみを持ち、小学校へ入学することへの安心感が高まるであろう。また、小学生は、歌やリズム遊びで幼児をリードすることにより、思いやりを持つとともに自分の成長に自信を持ち、幼児への関心を持つことができると考えられる。

5 事前の指導

○出し物の練習 始めの言葉・・・2名

司会の言葉・・・4名

音楽リズム4曲

終わりの言葉・・・2名

感想・・・3～4名

○ 準備 手作りペンダント（「ハッピーフレンズ」で使用）

○ 感想用紙

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
10:35	1 体育館へ入場し席へ着く。	○身近に感じるよう向かい合うようにする。
	2 幼稚園・保育所入場し席へ着く。	○拍手で迎えるようにする。
10:40	3 先生の言葉（小学校）	○話を最後までしっかり聞くようにする。
	4 司会のあいさつ・・・小学生代表	○明るく元気に話すようにする。
	5 始めの言葉・・・小学生代表	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
	6 3年生の歌「ドレミの歌」	○自信をもって、一生懸命に歌いながらリズム体操をするようにする。
	7 幼児も一緒にドレミ体操	◇幼児と積極的に関わりながら、優しく思いやりを持って教えることができる。
10:55	8 リズム音遊び 「からだのたいこ」	○恥ずかしがらずに動作を大きくして踊る。 ◇幼児が安心して取り組めるよう、自分から
	9 みんなとリズムにのって歌おう 「ハッピーフレンズ」	進んで幼児とスキンシップをとりながら踊ることができる。
11:05	10 みんなで歌って遊ぼう 「ロンドン橋」	◇幼児の手を引きながら、ゲームを楽しむことができる。
	11 感想発表・・・幼児代表	○みんなに聞こえる声ではっきり話すようにする。
11:25	12 終わりの言葉・・・小学生代表	○お別れの挨拶をする。

第4学年 交流活動案

日時 平成19年6月19日(火)

場所 平方小体育館

指導者 平方小学校 坂本、金子、野坂、内田、飯野

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【総合2時間】

1 交流活動名 「音楽交流会」

2 活動のねらい

- 小学生 自分から進んで幼稚園児や保育園児に声をかけたり、手をつないだりして思いやりの心をもってやさしく接することができる。
- 幼児5歳児 4年生の歌を聴いたり、一緒に触れ合って遊んだりして親しみの気持ちをもつ

3 幼児の実態

- ・ 「お誕生月集まれ」や「なべなべそこぬけ」のリズム遊びなどを幼稚園でも友達と楽しんでおり、触れ合って遊ぶことが好きである。
- ・ 年少のときに絵本の読み聞かせや昔遊び・クイズなど小学生との交流を経験しているので、小学生と遊ぶことに大きな期待を持っている。
- ・ 幼児同士では友達とのかかわりがふえ、自分の思いを伝えたり友達の話の聞いたりできるようになっている。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、発表を見たりすることで、上級生に親しみ、あこがれを持つことができるであろう。また、小学生は、歌や合奏を披露してあげたり、幼児に喜んでもらったりすることで、幼い人に対する優しい心を育み、自信を持つことができると思う。

5 事前の指導

- 歌、合奏の練習・・・3曲
- 司会、言葉の指導・・・各クラス代表2名
- 音楽遊びの練習・・・2曲
- 幼児への接し方

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:35	1 始めの言葉（4年生代表）	○幼稚園児、保育園児に分かりやすい言葉で話すようにする。
9:45	2 校長先生の話	○目と耳を傾けてしっかり聞けるようにする。
10:00	3 4年生による歌、合唱披露 （かさじぞう、子どもの世界、とんび）	○隊形移動を素早く、静かに行い、それぞれのパートごとに合わせて演奏できるようにする。
	4 4年生、幼稚園児、保育園児によるゲーム交流（お誕生月集まれ、なべなべそこぬけ）	○4年生が幼稚園児、保育園児をリードできるように指導する。 ◇自分から進んで幼稚園児や保育園児とやさしく声をかけたり、手をつないだりすることができる。
10:15	5 終わりの言葉（4年生代表）	○幼稚園児、保育園児に分かりやすい言葉で話すようにする。

7 活動を終えて

- 幼稚園児や保育園児と同じ目線で接してあげられる児童が多かった。
- 年下の子どもに、自分から関わることで、年長者としての意識が芽生えてきた。
- 積極的に園児と関わり、おんぶや抱っこをしてくれたり、話しかけてくれたりする小学生もいて、子どもたちもそのことがとても嬉しかったと話していて、そういった関わりがあったことが、とても良かった。
- 幼児にとって、4年生はとても大きく、「かっこよかった」「足がすごく大きかった」等、一緒に関わるだけで色々感じたことがあったようなので、触れ合う機会がもててよかった。
- 幼稚園児や保育園児に進んで交流することができなかった児童が見受けられた。
- 「お誕生月集まれ」のリズムは、幼稚園と小学校で少しやり方が違っていて、戸惑っている小学生もいたので、事前に話し合えばよかった。
- 児童には、様々な交流活動を経験することで、接することができるように指導していきたい。
- 児童には、教師が声かけをすることで、成功体験をつまらせていきたい。
- 幼児は、自分たちの知っている「小さな世界」や「お誕生月集まれ」「なべなべそこぬけ」の曲やリズムを小学生と一緒にしたり、聞かせてもらったりすることが、より楽しいようだったので、そういったお互いに楽しめる曲やリズムをするのもいいと思った。

第4学年 交流活動案

日時 平成19年11月22日(木)

場所 4-1 3階多目的室

4-2 2階多目的室

4-3 教室

指導者 平方小学校 坂本、金子、野坂

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【国語3時間】

1 交流活動名 「読み聞かせ」

2 活動のねらい

- 小学生
 - ・ 幼児にわかりやすく本を読むことができる。
 - ・ 幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
- 幼児5歳児
 - ・ 小学生とのかかわりの中で、自分の思ったことや感謝の気持ちを相手に伝えるように言葉で伝える。
 - ・ 小学生が読んでくれる絵本をじっくり聞き、お話の世界を楽しむ。

3 幼児の実態

- ・ 降園時に教師が読む絵本や紙芝居をとっても楽しみにしており、長い物語や読み聞かせなども集中して聞くことができるようになってきている。
- ・ 週一回の絵本の貸し出しでは、ぐりとぐら・バーバーパパなど好きなシリーズを楽しみに借りていく姿が見られる。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、読み聞かせを聞いたりすることで、上級生に親しみ、あこがれを持つことができるであろう。また、小学生は、読み聞かせや手遊びを披露して、幼児に喜んでもらったりすることで、幼い人に対する優しい心を育み、自信を持つことができると思う。

5 事前の指導

- 読み聞かせの練習・指導
- 手遊びの練習・指導
- 幼児への接し方

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:35	1 始めの言葉	
9:37	2 4年生、幼稚園児、保育園児による自己紹介・手遊び交流（班ごと）	○4年生が幼稚園児、保育園児の緊張をほぐすために楽しませることができるよう指導する。
9:45	3 4年生による読み聞かせの披露（班ごと）	○幼稚園児、保育園児にはっきりゆっくり分かりやすく読むようにする。
10:05	4 感想交流	○目と耳を傾けてしっかり感想を交流できるようにする。
10:13	5 終わりの言葉	◇幼児にわかりやすく本を読んだり、思いやりの心をもって、優しく接したりすることができる。

7 活動を終えて

- 幼稚園児や保育園児の反応を見ながら読み聞かせや手遊びをしていた。
- 年下の子どもを思いやる気持ちや態度がたくさん出ていた。
- 4年生が本を一生懸命読み、幼稚園児や保育園児も真剣に聞いていた。
- グループ（4～5人の班につき、3人の幼稚園児や保育園児）で活動したことで、一人一人が自覚をもって取り組むことができた。
- 他教科と連携をとりながら、事前指導の時間を生み出す工夫をしていきたい。
- 幼稚園児や保育園児にわかりやすく本を読むことができなかった児童が見受けられた。
- 教師が声がけをすることで、成功体験をつまらせていきたい。

第4学年 交流活動案

日時 平成19年2月12日(木)

場所 4-1 3階多目的室

4-2 多目的室

4-3 教室

指導者 平方小学校 坂本、金子、野坂

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【国語3時間】

1 交流活動名 「言葉遊び」

2 活動のねらい

- 小学生
 - ・ 幼児に詩や言葉をわかりやすく教え、一緒に楽しむことができる。
 - ・ 幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
- 幼児5歳児
 - ・ 言葉のリズムややりとりのおもしろさに気づき、遊びを楽しむ。
 - ・ 4年生の話を聞いたり自分の思いを伝えたりして関わって遊ぶ。

3 幼児の実態

- ・ 正月遊びや郵便屋さんごっこで、文字や数、言葉を取り入れて遊び、興味をもって書いたり、読んだりしている。
- ・ しりとりや言葉集めなどに興味をもち、教師や友達と喜んで遊んでいる。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、詩や言葉遊びを聞いたりすることで、上級生に親しみ、あこがれを持つことができるであろう。また、小学生は、詩や言葉遊びを披露して、幼児に喜んでもらったりすることで、幼い人に対する優しい心を育み、自信を持つことができると思う。

5 事前の指導

- 詩や言葉遊びの練習・指導
- 詩や言葉遊びの選択
- 幼児への接し方

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
9:35	1 始めの言葉	
9:37	2 4年生、幼稚園児、保育園児による詩や言葉遊びの交流（班ごと）	○幼稚園児、保育園児に分かりやすく読んだり、交流したりできるようにする。 ○目と耳を傾けてしっかり感想を交流できるようにする。
9:45	3 感想交流	◇幼児に詩や言葉をわかりやすく教え、一緒に楽しむことができる。
10:05	4 終わりの言葉	◇幼児に思いやりの心をもって、優しく接することができる。
10:13		

第5学年 交流活動案

日時 平成19年7月17日(火)

場所 体育館

指導者 平方小学校 高橋、赤木、小高

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所

新井、氏家、板垣

教科時数内訳【図工8時間・学級活動1時間】

1 交流活動名 「パズルで遊ぼう」

2 活動のねらい

○小学生・幼児にパズルの遊び方を分かりやすく教えることができる。

・幼児に優しく話しかけたり遊んだりしながら、思いやりのある気持ちで接することができる。

○幼児 ・5年生の作ったパズルで話したり、教えてもらったりして触れ合いを楽しむ。

3 幼児の実態

○自分の気持ちや考えを相手に伝えられる幼児と、初対面の人に対して自分の気持ちを伝えられず黙ってしまう幼児がいる。

○1つの遊びに集中して取り組める幼児が多くなってきたが、まだ集中が続かずにあきてしまったり、できないことをすぐにあきらめてしまう幼児もいる。

○交流会は3回目なので、小学生と交流できることをすごく楽しみにし、期待をもっている。

4 幼稚園・保育所との連携

幼児は、小学生に優しく接してもらったり、一緒に遊んだりすることで、上級生に親しみをもつことができるであろう。また、小学生は、パズルのやり方を分かりやすい言葉で伝えたり、楽しく遊んだりすることで、思いやりの気持ちをもち、優しく接することができると思う。

5 事前の指導

○始めの会・終わりの会の練習 各クラス代表1名

○グループ分け 各クラス4グループ

○遊び方の練習

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
10:15	1 席に着く。	
10:20	2 始めの会	○みんなに聞こえるようにはっきり話す。

		①始めの言葉 ②校長先生のお話 ③パズルの説明	○話を最後までしっかり聞くようにする。
10:25	3	グループ作り	○お互いにあいさつをして、輪になるようにさせる。 ◇自分から進んで幼児に優しく声をかけることができる。
10:30	4	パズルで遊ぶ	○パズルのやり方を優しく教えることができるようにする。 ◇楽しく遊んだり、幼児をほめたりできる。
10:55	5	後片づけをして席に着く。	○協力して片付けをする。 ◇優しい声かけをしながら、片付けをし、席まで送っていくことができる。
11:00	6	終わりの会 ①感想発表 ②終わりの言葉	○感想を交えながら、はっきり話すようにする。
	7	さようならの挨拶をして、見送りを する。	○お別れの挨拶をする。

7 活動を終えて

- 一緒に遊ぶことで、親しみが増し、交流が深まった。
- 2人組や3人組にしたので、パズルが教えやすく、幼児が分かりやすかった。
- 自分達で作った物を幼児が楽しく遊んでくれたので、5年生は満足していた。
- 楽しく過ごせたことで、給食交流に向けて、意欲が高まった。
- じっくりパズルに取り組めていてよかった。
- 事前の時間があまりとれなかったのも、その場でグループを組んでしまったので、名簿の交換をしておくよかった。
- パズルにすぐ目がいってしまって、自己紹介が疎かになってしまった。

第5学年 学級活動(就学児給食体験) 指導案

日時 平成20年1月21日(月)

児童数 88名 幼児数 64名

場所 5年全学級教室

家庭科室(5-1・エンゼル)

ランチルーム(5-2・ぞう)

第一会議室(5-3・くま)

指導者 平方小学校 高橋、赤木、小高

平方幼稚園 大室、加藤、久川

西上尾第2保育所 新井、氏家、板垣

教科時数内訳【学級活動2時間】

1 活動名 「幼稚園・保育園と給食交流をしよう」

2 活動のねらい

○小学生・幼児に給食の仕方を分かりやすく教えることができる。

・幼児への思いやりの気持ちをもって、優しく接することができる。

○幼児 ・5年生に教わったり、一緒に食べたりし、給食の雰囲気を楽しみ、小学校への期待をもつ。

3 幼児の実態

○決められた時間内に食べ終わるように意識し、嫌いなものでも食べようとする気持ちが育っている。

○給食をととても楽しみにしている。

4 幼稚園・保育所との連携

幼稚園・保育所の園児に給食の配膳の仕方やマナーや片付けの仕方などを分かりやすい言葉で伝えたり、楽しく会食したり、簡単なゲーム等を一緒にやって思いやりの気持ちをもって優しく接する場としたい。

5 事前の指導

○始めの会・終わりの会の練習をする。

○グループ分けをする。 各クラス6グループ

○遊び方の練習をする。

○幼児は名札を用意する。

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導・活動のポイント ◇評価のポイント
11:50	1 それぞれの活動場所へ移動する。	○各グループ代表1人が迎えに行く。
12:00	2 配膳の準備をする。 席を決める。 自己紹介をする。	○園児の名前を呼び、手をつないで席へ連れて行く。 ○自己紹介をし合い、名前呼び合えるようにする。
12:10	3 配膳をする。	○5年生が付き添って、園児の給食をもらい、席に運ぶ。 ◇配膳の仕方を分かりやすく教えることができる。
12:20	4 楽しく会食する。	○マナーを守り、楽しい会食になるよう5年生が上手にリードできるようにする。 ◇園児の気持ちを考えて、楽しい会話ができる。
12:55	5 片付けをする。	○一緒に教えながら給食の片付けをする。 ◇優しい言葉や態度で教えることができる。
13:05	6 楽しく交流する。	○グループごとに簡単な遊びをし、楽しく過ごす。 ◇園児に優しく遊びを教えることができる。
13:20	7 さようならの挨拶をして、見送りをする。	○手をつないで、園児を集合場所まで連れて行く。

第6学年 交流活動

平成19年11月9日(金)

場所 平方幼稚園園庭

指導者 平方小学校 鈴木、小西、吉田

平方幼稚園 大室、加藤、久川

教科時数内訳 【総合1時間】

1 交流活動名 平方動物園

2 活動のねらい

- 小学生 ・ 幼児の発表を聞いたり、クイズに答えたりして動物園を楽しむ。
・ 幼児の発表の良さを見つけ、ほめたりやさしい言葉かけをしたりするなど
思いやりのある気持ちで接することができる。
- 幼児 ・ 小学生に発表し、認められることで自信が持てる。

3 幼児の実態

- 動物園で見たことや自分の知っていることを友達に伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら、自分たちで協力して進めようとする姿が見られた。思いを受け止めてもらったことを喜んで、自信を持ったり、相手の思いも受け入れたりしようとする姿が多く見られた。
- 年少さんや小学生のお兄さん、お姉さんに見せたいという自分の気持ちを言葉にして表現する幼児が増えてきた。喜んで来てもらえるように招待状を作ったり、クイズを考えたりと友達と工夫して作る姿が見られた。

4 幼稚園との連携

幼児は、小学校の最高学年である6年生に対して発表し、あたたかい言葉をもらうことで、自分たちの活動に自信を持つことができるであろう。また、小学生は自分たちの入学前を思い出し、あたたかく接することで思いやりの心を育むことができるであろう。

5 事前の指導

- 各クラス、個人で招待状をいただく。(前日10:40～)
→目線を合わせて、各自お礼の言葉を述べる。
- 幼稚園側との打ち合わせを行い、平方動物園にいる動物を確認する。(10頭)
- 幼稚園内での態度、園児に対する言葉かけを確認する。
→会話をする。工夫しているところをほめる。

6 当日の流れ

時間	活動の流れ	○指導のポイント ◇評価のポイント
11:00	幼稚園を訪問する。 (1組→2組→3組)	○プール側の門から入るようにする。 ○幼稚園児が受付を行うので、時間差で訪問する。
11:05	招待状とスタンプカードを交換して、園内を見学する。	○各クラスグループで、空いているところから見学をする。 ◇園児からの問題に答えたり、小学生の側から園児に質問したりして、動物園を楽しむ。 ◇あいさつをしたり、発表をほめたりするなど、思いやりの心を持って接するようにする。
11:40	お礼の会を行う。 ・小学生の感想(2~3名) ・幼稚園児の感想 ・園長先生のお話 ・握手をして退場	○6年担任の司会進行で、会を行う。 ◇感想発表に対し、あたたかい拍手でこたえるようにする。

7 活動を終えて

- 園児の態度がすばらしく、自信を持って活動している姿が見られた。
- 動物が上手にできていて、時間をかけて制作をした努力が伝わってきた。
- BGMが臨場感を出していて、本当の動物園にいるようだった。
- 6年生としての自覚を持って、園児に対する言葉かけができていた。
- 動物園の様子を思い出しながら、招待ありがとうの気持ちをまとめることができた。
- 事前に打ち合わせを行っていたので、当日の進行がスムーズにできた。